

### 法政大学講義録

三宅, 徳業 / 松浦, 鎮次郎

---

(出版者 / Publisher)

法政大学

(巻 / Volume)

27

(号 / Number)

特別法

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

45

(発行年 / Year)

1905-11-30



(明治三十八年九月二十七日第三種郵便物認可  
毎月二回十二月二十九日發行)

明治三十八年十一月三十日發行

特別法ノ二十七

法政大學講義録

第百貳拾號

法政大學發行

特別法第二十七號目次

府 縣 制 (百四九)

法學士 松浦 鎮次 郎

非訟事件手續法 (百五五)

法學士 三宅 德業

雜報

○競賣法ニ依ル競賣手續開始決定ノ取消○杉本講師ノ逝去○擔任講師ノ變更○討論會及ヒ雄辯會

090  
1903  
5-27

ルモノトス

府縣會ハ府縣知事ノ發スル議案ニ付キ議決ヲ爲シ得ルノミニシテ自ラ發案ヲ爲スコトヲ得ズ但シ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付キ意見書ヲ官廳ニ呈出シ又ハ官廳ノ諮問ニ對シテ意見ヲ答申スルカ如キ其他府縣會議員中被選舉權ヲ有セタル者アリト認ムルトキ之ヲ府縣知事ニ通知スルカ如キ府縣會ノ自動行爲ト見ルヘキモノニ付テハ府縣會中ニ於テ發案シ得ルモノナリト見ルノ外ナシ法律命令ノ規定ニ依リ府縣會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ一名毎ニ匿名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半数ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若過半数ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二名ヲ取り之ニ付テ決選投票ヲ爲サシムルモノトス其二名ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此決選投票ニ於テハ過半数タルヲ要セス最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若同數ナルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム其他選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フト投票ハ一人一票ニ限リ單記無記名ニシテ自署ヲ要スルコト投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ユ

府縣制 府縣ノ編制

（キ）投票ニシテ成規ノ用紙ヲ用キサルモノ、一投票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルモノ、被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ、被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ及爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ノ外被選舉人ノ氏名外ノ事ヲ記シタルモノハ之ヲ無効トスルコト、投票ノ效力ハ議員ニ問ヒ之ヲ決シ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決スルコト等ハ總テ府縣會議員選舉ニ關スル規定ヲ準用スルモノトス猶選舉ニ付テハ府縣會ノ議決ヲ以テスレハ右ノ選舉方法ニ代ヘ議長ニ一任シテ候補者ヲ指名セシメ之ニ付テ直ニ議決ヲナスカ如キ所謂指名推選ノ方法ヲ用ウルコトヲ得又一名毎ニ投票スルニ代ヘ連名投票ノ方法ヲ用ウルコトヲ得此場合ニハ他ノコトハ總テ前述ノ例ニ依ルモノトス府縣知事及其委任若ハ囑託ヲ受ケタル官吏更員ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得サルハ勿論ナリトス右ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許ササルヘカラス但シ之カ爲ニ議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得サルモノトス

府縣會ノ會議ハ公開スルヲ本則トス但シ府縣知事ヨリ傍聴禁止ノ要求ヲ受ケ

タルトキ及議長若ハ議員三名以上ノ發議ニ依リ傍聴禁止ヲ可決シタルトキハ此限ニ在ラス而シテ右ニ關スル議長若ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須ヒス其可否ヲ決スヘキモノトス議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其日ノ會議ヲ閉閉シ議場ノ秩序ヲ保持スルノ職權ヲ有ス府縣會議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス會議中府縣制ノ規定若ハ會議規則ニ違ヒ其他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若ハ發言ヲ取消シシメ命ニ從ハサル場合ニハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ議場外ニ退去セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得其他議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得傍聴人ニシテ公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其他會議ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得又傍聴席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聴人ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ會議ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議員若ハ前述



ノ列席者ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

府縣會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シ其指揮監督ヲ受ケテ庶務ヲ處理セシムルモノトス書記ハ議長之ヲ任免ス議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ製シ會議ノ頗末并出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘキモノトス會議錄ハ議長及議員二名以上之ニ署名スルヲ要ス其署名スヘキ議員ハ府縣會ニ於テ之ヲ定ムヘキモノトス又議長ハ會議錄ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ府縣知事ニ報告スルヲ要ス

府縣會ハ議事ノ手續及府縣會内部ノ紀律ヲ定ムル所ノ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ内務大臣ノ許可ヲ受クヘキモノトス會議規則ニハ府縣制及會議規則ニ違背シタル議員ニ對シ府議會ノ決議ニ依リ五日以内出席ヲ停止スルノ規定ヲ設クルコトヲ得

特別ノ事情アル府縣ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ市部郡部ノ經濟ヲ分別シ市部會郡部會市部參事會郡部參事會市部參事會ヲ置キ其他必要ノ事項ニ關シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得是レ府縣制第四百十條ノ規定スル所ナリ此規定ニ基キテ定メラレタル勅令ニ依レハ從來市部郡部ノ經濟ヲ分別シタル府縣ニ於

テハ内務大臣ハ其區域ニ依リ市部郡部ノ經濟ヲ分別シ市部會郡部會市部參事會郡部參事會ヲ設ケシムルコトヲ得市部會郡部會ハ各市部郡部ニ於テ選出シタル府縣會議員ヲ以テ之ヲ組織スルモノトシ市部又ハ郡部ニ於テ選出スヘキ府縣會議員ノ數十二名ニ滿タサルトキハ府縣制規定ノ定員ニ拘ラス之ヲ十二名トス府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ府縣會ノ議決ヲ經ヘキ事件ト市部會郡部會ノ議決ヲ經ヘキ事件トノ分別ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ムルモノトシ若許可スヘカラスト認ムルトキハ内務大臣之ヲ定ム府縣費ニ關スル市部郡部ノ分擔及收入ノ割合ヲ定ムルニモ亦同一ノ方法ニ依ル以上二箇ノ事件ニ付テハ議員定員ノ五分ノ四以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス尤モ該勅令ニ依リ市部會郡部會ヲ設クル府縣ニ於テハ從來定マリタル市部郡部ニ關スル事件及市郡部連帶ニ關スル事件ハ該令ニ於テモ依然效力ヲ有スルモノトス

以上述ヘタルモノノ外ハ市部會郡部會ニ關シテハ總テ府縣會ニ關スル規定ヲ準用ス尙市部會又ハ郡部會ニシテ解散ヲ命セラレタルトキハ其議員ハ府縣會

議員ノ職ヲ失フモノトス現今内務大臣ニ於テ從來ノ區域ニ依リ市郡部ノ經濟ヲ分別シ市部會郡部會ヲ設クヘシトセルハ三府及神奈川兵庫愛知廣島ノ四縣ナリ

(府縣制第四十一條乃至第六十四條第四百十條明治三十二年六月二十日勅令第二百八十五號市部會郡部會等ノ特例ニ關スル件明治三十二年六月二十一日內務省令第二十五號市郡部會市郡部參事會ヲ設クルノ件參照)

### 第二項 府縣參事會

#### 第一、組織及選舉

府縣參事會ハ一ノ合議體ニシテ府縣知事府縣高等官二名及名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス府ノ名譽職參事會員ハ八名トシ縣ノ名譽職參事會員ハ府縣會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉スヘク府縣會ハ名譽職參事會員ト同數ノ補充員ヲ選舉スヘキモノトス名譽職參事會員中關員アルトキハ府縣知事ハ補充員ノ中ニ付キ之ヲ補闕ス其順序ハ選舉同時ナルトキハ投票數ニ依リ投票同數ナルト

キハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ニ依リ選舉ヲ異ニスルトキハ選舉ノ前後ニ依ル如斯ニシテ仍關員ヲ生シタルトキハ臨時補闕選舉ヲ行フヘキモノトス補闕員ハ前任者ノ殘任期間在任ス名譽職參事委員及其補充員ハ府縣會議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘキモノトス但シ名譽職參事會員ハ後任者トノ空際ヲ生セザラシカ爲ニ後任者就職ノ日マテ在任ス府縣高等官ニシテ府縣參事會員タルヘキ者ハ内務大臣之ヲ命スルモノトス府縣參事會ハ府縣知事ヲ以テ議長トス府縣知事故障アルトキハ高等官參事會議長ノ職務ヲ代理スルモノトス

名譽職參事會員ハ固ヨリ給料ヲ受クルコトナシト雖モ職務ノ爲メ要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得費用辨償額及其支給方法ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム若シ之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ内務大臣之ヲ定ムルモノトス

(府縣制第六十五條乃至第六十七條第九十四條參照)

#### 第二、職務權限及處務規程

府縣參事會モ亦府縣會ト同シク法カ特ニ列舉セル事項ノミヲ議決スル權限ヲ有ス法カ府縣參事會ノ權限トシテ規定セル事項ハ一府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其委任ヲ受ケタルモノヲ議決スルコト二府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキ府縣會ニ代テ議決スルコト三府縣知事ヨリ府縣會ニ提出スル議案ニ對シ意見ヲ述フルコト四府縣會ノ議決シタル範圍内ニ於テ財產營造物ノ管理ニ關シ重要ナル事項ヲ議決スルコト五法律命令中別段ノ規定アル場合ノ外府縣費ヲ以テ支辨スヘキ工事ノ執行ニ關スル規定ヲ議決スルコト六府縣ニ係ル訴訟訴訟及和解ニ關スル事項ヲ議決スルコト七法律命令ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項是ナリ右ノ中第一ニ所謂府縣會ノ權限ニ屬スル事項ノ委任ハ各箇ノ場合ニ於テ之ヲ爲シ得ルノミナラス事項ヲ定メ豫メ之ヲ委任スルコトヲ得尙府縣參事會ハ主トシテ議決機關トシテ行動スルモノニシテ之カ權限トシテ定メラレタル前述ノ事項ノ如キ皆此趣旨ニ依リタルモノナリト雖モ法ノ特別ノ規定ニ依リ彼ノ異議ノ決定又ハ訴訟ノ裁決ノ如キ事件ヲ處理スル場合ハ一箇ノ

行政廳トシテ活動スルモノナリトイハサルヘカラス府縣參事會ハ又名譽職參事會員ヨリ委員ヲ選舉シ之ヲシテ府縣ニ係ル出納ヲ檢査セシムルコトヲ得其檢査ニハ府縣知事又ハ其指命ヲ受ケタル官吏吏員之ニ立會フコトヲ要ス其他府縣參事會ニ於テ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付キ意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルヲ得ルコト及官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘキコト并官廳ニ於テ會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ會ヨリ意見ヲ呈出スル能ハス又ハ之ヲ呈出セサルトキハ當該官廳ハ其意見ヲ待タスシテ直ニ處分ヲ爲スヲ得ルコト府縣知事及其委任若ハ囑託ヲ受ケタル官吏吏員カ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルヲ得ルコト并其列席者ノ發言ニ關スルコト府縣參事會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシムルコト及書記任免ニ關スルコトニ付テハ府縣會ニ關スル規定ヲ準用スルモノトス

府縣參事會ハ府縣知事之ヲ召集スルモノトス若名譽職參事會員半數以上ノ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ヲ召集セサルヘカラス府縣參事會ノ會期ハ府縣知事ニ於テ之ヲ定ムルモノトス府

縣參事會ノ會議ハ秘密會ニシテ傍聽ヲ許サス府縣參事會ハ議長又ハ其代理者及名譽職參事會員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ決シ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル臨時急施ヲ要シ府縣會ニ代テ議決スル場合ハ府縣知事及高等官參事會員ハ其議決ニ加ハルコトヲ得ス議長及參事會員ハ自己若ハ父母祖父母妻子孫兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ府縣參事會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ議事ニ參與スルコトヲ得ス此規定ノ結果會員ノ數減少シテ會議ヲ開クニ必要ナル定員數ヲ得サルトキハ府縣知事ハ補充員ニシテ其事件ニ關係ナキ者ヲ以テ先ニ選ヘタル關員補充ノ順序ニ依リ臨時ニ之ニ充テ仍其數ヲ得サルトキハ府縣會議員ニシテ其事件ニ關係ナキ者ヲ臨時ニ指名シ其關員ヲ補充スルヲ要ス尙此等ノ故障ノ爲メ議長及其代理者共ニ除席セラレタルトキハ年長ノ會員ヲ以テ假議長ト爲スヘキモノトス

府縣參事會ハ府縣知事ノ發スル議案ニ付キ議決ヲ爲シ得ルノミニシテ自ら發案ヲ爲スコトヲ得ス但シ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付キ意見書ヲ官廳ニ差出シ又ハ官廳ノ諮問ニ對シテ意見ヲ答申スルカ如キ府縣參事會ノ自動行爲ト見ルヘキモノニ付テハ府縣參事會中ニ於テ發案シ得ルモノナリト見ルノ外ナシ尙府縣參事會カ行政廳トシテ行動スル場合即チ異議ノ決定又ハ訴願ノ裁決ヲ爲ス場合ニ於テハ其發案ハ府縣知事ニ於テ之ヲ爲スヘキモノナルヤ將府縣參事會自ラ之ヲ發案シ得ルモノナルヤハ少シク疑ナキニ非スト雖モ府縣制ノ精神ハ此場合ニ於テモ府縣參事會ノ議事ヲ準備スル行爲即チ發案ヲ爲スカ如キコトハ之ヲ府縣知事ノ權限ニ屬セシメタルモノナリト解スルヲ穩當トス府縣參事會ノ會議ノ頭末ハ之ヲ會議錄ニ記載シ議長及參事會員二名以上之ニ署名スルヲ要ス

府縣制第四百十條ニ依レハ特別ノ事情アル府縣ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ市部郡部ノ經濟ヲ分別シ市部會郡部會市部參事會ヲ置キ其他必要ナル事項ニ關シ別段ノ規定ヲ設クルヲ得而シテ此規定ニ基キタル勅令ニ依レハ從來市部郡部ノ經濟ヲ分別シタル府縣ニ於テハ內務大臣ハ其區域ニ依リ市部郡部ノ經濟ヲ分別シ市部會郡部會市部參事會ヲ設ケシムルコトヲ得市部

會郡部會ヲ設ケタル縣ニ於テハ名譽職參事會員ノ定員ヲ八名トス市部會郡部會ヲ設ケタル府縣ノ名譽職參事會員ハ各會ニ於テ其定員ノ半數ヲ選舉スルモノトス又市部參事會郡部參事會ハ府縣知事府縣高等官參事會員及各部會ニ於テ選舉シタル府縣名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織スルモノトス右ニ述ヘタル所ヲ除ク外ハ市部參事會郡部參事會ニ關シテハ總テ府縣參事會ニ關スル規定ヲ準用ス現今内務大臣ニ於テ市部參事會郡部參事會ヲ設クヘシトセル府縣ハ固ヨリ先ニ市部會郡部會ニ付テ述ヘタル所ト同一ナルカ故ニ別ニ茲ニ述ヘス

〔府縣制第六十八條乃至第七十四條明治三十二年六月二十日勅令第二百八十五號市部會郡部會等ノ特例ニ關スル件明治三十二年六月二十一日内務省令第二十五號市郡部會市郡部參事會ヲ設ケルノ件參照〕

## 第二款 行政機關

府縣ノ行政機關トハ府縣知事及其補助機關ヲ謂フナリ

### 第一、府縣知事

府縣知事ハ地方行政ノ長官タルト同時ニ府縣團體ノ最高機關トシテ團體ノ行政ヲ掌リ法カ特ニ規定シテ議決機關ノ參與ヲ要ストナセル事項ノ外ハ自己ノ意思ヲ以テ直ニ府縣ノ意思ト爲シ之ヲ外部ニ施行スルノ職權ヲ有スルモノナリ府縣制第七十八條ニ於テ府縣知事ハ府縣ヲ統轄シ府縣ヲ代表スルト規定セルハ即チ上述ノ意味ニ外ナラス如斯ク府縣知事ノ權限ハ特ニ制限ナキ限ハ廣クシテ及ハサル所ナキカ故ニ其事項ヲ一一列舉スルコトヲ得ス府縣制第七十八條ニ掲ケタル所ノ如キハ所謂概目ニシテ其重要ナルモノヲ示シタルニ過キス即チ一府縣費ヲ以テ支辨スヘキ事件ヲ執行スルコト二府縣會及府縣參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付キ其議案ヲ發スルコト三財產及營造物ヲ管理スルコト但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其事務ヲ監督スルコト四收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スルコト五法律命令又ハ府縣會若ハ府縣參事會ノ議決ニ依リ使用料及手數料府縣稅夫役現品ヲ賦課徵收スルコト七其他法律命令ニ依リ府縣知事ノ職權ニ屬スル事項是ナリ右ノ中發案權ノコトニ關シテハ發案ヲ爲シ得ルハ

絕對的ニ知事ノミニ限リ府縣會又ハ府縣參事會ハ如何ナル場合ニ於テモ發案ヲ爲シ得ストイフニハ非スシテ府縣會若ハ府縣參事會ノ自動行爲ト見ルヘキモノニ付テハ其會ニ於テ自ラ發案ヲ爲スモノナルハ前已ニ述ヘタリ又府縣會若ハ府縣參事會ニ於テ發案ヲ爲シ得サル場合ニ於テモ修正ハ固ヨリ之ヲ爲シ得ルヲ以テ時トシテハ一ノ事實カ修正ナルヤ將タ發案權ノ侵害ナルヤ頗ル疑ハシキ場合ナキニ非ス例ヘハ豫算案ヲ議スルニ當リ原案ノ金額ヲ増加スルハ修正權ノ範圍内ニ屬スルコト疑ナシト雖モ一步進テ新ニ一ノ項目ヲ設クルカ如キハ發案權ノ侵害ナリトイハサルヘカラス又項目ヲ設クルコトナシトスルモ原案項目ノ内譯ニ記載セサル費途ヲ設ケ之カ爲ニ或ル金額ヲ豫算ニ入ルルカ如キハ猶發案權ノ侵害タルコトヲ免レサルヘシ要スルニ原案ニ豫想セサル費途ヲ設クルカ如キハ如何ナル微細ノ點ニテモ發案權ノ侵害トナルモノナリトイハサルヘカラス之ニ反シテ府縣稅賦課規則案ヲ議スルニ當リ原案ニ規定セサル罰則等ヲ設クルノ修正ヲ爲スモ之カ爲ニ發案權ノ侵害トナルコトナシ畢算豫算案ヲ議スル趣旨ハ原案ニ豫想セル一定ノ費途ニ對シ支出スヘキ金額

ヲ定メントスルニ在ルカ故ニ少シニテモ原案ニナキ費途ヲ設クルハ議決機關ノ權限ヲ超エ府縣知事ノ發案權ヲ侵スコトトナルモ府縣稅賦課規則案ヲ議スル場合ハ右ト稍其趣旨ヲ異ニシ賦課規則タル範圍ヲ超エサル以上ハ如何ナル規定ヲ加ヘ如何ナル修正ヲ爲スモ議決機關ノ自由ナルカ故ニ原案ニ規定セサル箇條ヲ加フルモ之カ爲ニ府縣知事ノ發案權ヲ侵スコトナキナリ此等ノコトハ議案ノ性質如何ヲ顧ミ之ヲ決スヘキモノニシテ一概ニ之ヲ論斷スルヲ得サルハ勿論ナリ

尙府縣知事ニ於テ議案ヲ府縣會ニ提出セントスルトキハ其前之ヲ府縣參事會ノ審査ニ付シ若府縣參事會ト其意見ヲ異ニスルトキハ府縣參事會ノ意見ヲ議案ニ添ヘ府縣會ニ提出スヘキモノトス府縣知事ハ府縣ノ行政ニ關シ自己ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ郡又ハ島ノ官吏吏員又ハ市町村吏員ニ補助執行セシメ若ハ委任スルコトヲ得補助執行セシムルトハ自己ノ職權トシテ自己ノ名ニ於テ行フコトヲ事實的ニ補助セシムルヲ謂フ即チ單ニ自己ノ手足トシテ働カシムルヲ謂フナリ委任ハ之ニ反シテ被委任者ノ職權トシテ之ヲ行ハシムルモ



ノナリ府縣知事ハ又府縣ノ行政ニ關シ其職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ自己ノ補助機關タル府縣吏員ニ代理セシムルコトヲ得

府縣知事ト議決機關タル府縣會若ハ府縣參事會トノ關係ニ付テハ法ハ特別ノ規定ヲ設ク即チ府縣會若ハ府縣參事會ノ議決若ハ選舉ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クト認ムルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ直ニ其議決若ハ選舉ヲ取消ササルヘカラス尤モ議決ニ付テハ直ニ之ヲ取消サス再議ニ付シタル上仍其議決ヲ改メサルトキニ於テ之ヲ取消スコトヲ得要スルニ此等ハ府縣會若ハ府縣參事會ノ議決若ハ選舉ヲ違法ナリトスル場合ナリ即チ單純ナル法律論カ問題トナレル場合ナリ故ニ府縣會若ハ府縣參事會ニ於テ其取消處分ヲ違法ナリトスルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得所謂權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背キタル議決ノ中ニハ執行ノ之ニ伴フ性質ノ議決ノミヲ含ムヤ將タ執行ノ之ニ伴ハサル議決例ヘハ府縣知事ノ不信任議決ノ如キモノヲ含ムヤハ問題ナリ然レトモ府縣制ノ趣旨ハ恐クハ執行ノ之ニ伴フト否トヲ問ハス總テ違法ノ議決ヲ包含セシムルニ在ル

ナルヘシ尙會議規則ニ違背シタル議決等ハ之ヲ直ニ違法ト稱スルヲ得ルヤハ疑問ナリト雖モ會議規則ニ從フヘキハ即チ府縣制ノ命スル所ナルカ故ニ之ニ背キタル議決等ハ所謂法律命令ニ背キタルモノノ中ニ包含スト解釋スルヲ穩當トスヘシ次ニ府縣會若ハ府縣參事會ノ議決カ公益ヲ害スルモノナリト認ムルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議セシメ仍其議決ヲ改メサルトキハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘキモノトス此場合ニハ問題トスル所ハ法律論ニ非スシテ公益論ナルカ故ニ府縣會若ハ府縣參事會ニ於テ右ノ處分ニ不服ナルトキト雖モ行政裁判所ニ出訴セシムヘキモノニ非ス唯救濟ノ一手段トシテ內務大臣ニ訴願セシムルノ方法アレトモ內務大臣ノ指揮ニ出テタル處分ニ對シ更ニ內務大臣ニ訴願ヲ許ストスルモ實益少キヲ以テ府縣制ニ於テハ此場合ニ訴願ヲ許スノ規定ヲ設ケス玆ニ注意スヘキハ府縣會若ハ府縣參事會ノ違法若ハ公益ヲ害スル議決ト稱スルハ此等ノ合議體カ議決機關トシテ行動スル場合ニ於ケル議決ニ付テ言フモノニシテ其法ノ特別ノ規定ニ依リ爭議ヲ決スル機關トシテ行動スル場合即チ

異議ノ決定若ハ訴願ノ裁決ヲ爲ス場合ノ議決ヲ包含セサルコト是ナリ何トナレハ異議ノ決定若ハ訴願ノ裁決ハ上級裁決廳行政裁判所ヲ含ムノ再審ニ依リ取消サルル外他ノ機關ノ干渉ヲ受ケシメサルコトカ立法ノ精神ナレハナリ次ニ府縣ノ收支ニ關スル議決ニ付テハ府縣制ハ別ニ一條ヲ設ケテ之ヲ規定セリ(府縣制第八十三條)即チ府縣會若ハ府縣參事會ニ於テ府縣ノ收支ニ關シ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其議決ヲ改メサルトキハ內務大臣ノ指揮ヲシテ指揮ヲ請フヘク場合ニ依リテハ再議ニ付セスシテ直ニ內務大臣ノ指揮ヲ請フコトヲ得訴願モ行政訴訟モ之ヲ認メス此規定ニ付テハ少シク疑問ノ餘地アリ府縣ノ收支ニ關シ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキトハ收支ニ關スル違法ノ議決及收支ニ關スル不當ノ議決違法ニハ非サレトモ公益ヲ害スル場合ヲ共ニ包含スル義ナルヤ將タ違法ノ議決ヲ含マスシテ不當ノ議決ノミヲ意味スル義ナルヤ若前者ナリトセハ一般ニ違法ノ議決若ハ選舉ニ付テハ前已ニ述フルカ如ク爭アル場合ニハ行政裁判所ノ判決ニ委スルコトトナセルニ拘ラス獨リ收

支ニ關スル違法議決ニ付テハ內務大臣ヲシテ最後ノ決定ヲナサシメ行政訴訟ヲ許ササルモノト看做ササルヘカラス若後者ナリトセハ違法議決ノ場合ハ其收支ニ關スルモノタルト否トヲ問ハス總テ前述ノ規定(府縣制第八十二條)第一項及第二項ニ依リ爭アル場合ニハ行政裁判所ノ判決ヲ待ツヘキモノニシテ唯收支ニ關スル不當議決ニ付テノミ別ニ一箇ノ規定ヲ設ケタルモノナリトイハサルヘカラス不適當ノ議決トイフ中ニ違法議決ヲ含ムヤ否ニ依リ如斯キ結果ノ差異ヲ生スヘシ吾人ハ不適當ノ議決トハ公益ヲ害スル不當議決ノミヲ意味スルモノニシテ違法ノ議決ヲ包含セサルモノナリト信ス然レトモ之ニ付テハ尙一ノ注意スヘキコトアリ場合ニ依リテハ一ノ收支ニ關スル議決カ違法ナルト同時ニ又大ニ公益ヲ害スルコトアリ此場合ニ於テハ違法議決ノ例ニ依リヘキヤ將タ收支ニ關スル不當議決トシテ之ヲ取扱フヘキヤノ問題はナリ之ニ付テハ其取消其他ノ處分ヲ必要トスル理由カ主トシテ議決ノ違法ナルノ點ニ存スルナラハ之ヲ違法議決トシテ取扱フヘク之ニ反シテ右ノ理由カ主トシテ議決ノ公益ヲ害スルノ點ニ存スルナラハ之ヲ收支ニ關スル不當ノ議決トシテ



取扱フヘキモノナリトス次ニ府縣知事ハ必要ナル場合ニハ期日ヲ定メテ府縣會ノ停會ヲ命スルコトヲ得停會ノ間ト雖モ其日數ハ會期中ノ日數ニ算入スヘキモノトス又府縣會若ハ府縣參事會カ招集ニ應セス又ハ成立セザルトキ及府縣會議員參事會員カ自己若ハ近親ノ一身上ニ關スル事件ニ付キ議事ニ參與スルヲ得ザルカ爲メ定足數ヲ充サスシテ會議ヲ開ク能ハザルトキ及府縣會若ハ府縣參事會ニ於テ其議決スヘキ事件ヲ議決セス又ハ府縣會ニ於テ其召集前告示セラレタル事件ニ關シ議案ヲ議了セザルトキハ府縣知事ハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得府縣參事會ニ於テ決定若ハ裁決ヲ爲スヘキ場合ニ於テ右ノ如キ事實ヲ生ジタルトキモ亦同一ノ例ニ依ルモノトス此場合ニ於ケル府縣知事ノ處分ニ對シテハ府縣參事會ノ決定若ハ裁決ニ對スルト同シテ訴訟及行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得總テ此處ニ掲タル所ノ府縣知事ノ處分ハ次ノ會期ニ於テ之ヲ府縣會若ハ府縣參事會ニ報告スルヲ要ス其他府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ府縣知事ニ於テ專決處分シ次ノ

會期ニ於テ其處分ヲ府縣參事會ニ報告スヘキモノトス又府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ其議決ヲ以テ府縣知事ニ委任シ之ヲシテ專決處分セシムルコトヲ得

第二、補助機關

甲、府縣官吏

府縣事務官技師屬等ノ官吏ハ地方長官タル府縣知事ノ補助機關トシテ國ノ行政事務ヲ掌ルモノタルト同時ニ府縣團體ノ首長タル府縣知事ノ補助機關トシテ府縣ノ行政事務ヲモ掌ルモノナリ府縣制第八十八條ニ於テ官吏ノ府縣行政ニ關スル職務關係ハ此ノ法律中規定アルモノヲ除ク外國ノ行政ニ關スル其ノ職務關係ノ例ニ依ルト規定セルハ即チ此關係ヲ示シタルモノナリ故ニ地方官官制ニ規定セル府縣官吏ノ職務關係ハ其者カ府縣範圍ノ行政事務ヲ掌ル際ニモ適用セラレルナリ例ハ府縣知事故障アルトキ第一部長タル事務官之ヲ代理スルノ關係ハ國ノ行政ヲ行フ場合ノミナラス府縣團體ノ行政ヲ行フ場合ニモ存スルカ如キ地方官官制ニ依リ國ノ教育事務ヲ掌ル事務官ハ當然亦府縣團體

ノ教育事務ヲ掌ラサルヘカラサルカ如キ是ナリ

乙. 府縣吏員

府縣ニ有給ノ府縣吏員ヲ置クコトヲ得此吏員ハ府縣知事之ヲ任免ス

府縣ニ府縣出納吏ヲ置キ官吏吏員ノ中ニ就キ府縣知事之ヲ命ス出納吏ハ一ノ職務ニシテ別ニ一ノ吏員タルニ非ス

府縣ハ又府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ臨時若ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得委員ハ名譽職トス委員ヲ如何ナル組織トナスヤ如何ナル方法ニ依リ之ヲ選任スルヤ且其任期ヲ如何ニ定ムルヤハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ムルモノトス

前述ノ職員ノ職務ヲ舉クレハ府縣有給吏員ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ事務ニ從事シ府縣出納吏ハ出納事務ヲ掌リ委員ハ府縣知事ノ指揮監督ヲ承ケ財產若ハ營造物ヲ管理シ其他府縣行政事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨スルモノトス府縣知事ノ命ヲ承ケトイフト府縣知事ノ指揮監督ヲ承ケトイフトハ法律上ノ意義トシテハ殆ト差異ナシ何レモ府縣知事ニ隸屬スルヲ意

味ス

府縣ノ事務ニ關スル處務規程ハ府縣知事之ヲ定ムルモノトス

一般ニ府縣吏員委員ヲ含ム官吏ニシテ出納吏ノ職ニ在ル者ハ含マズハ府縣知事ノ監督ニ屬シ府縣知事ニ於テ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其懲戒處分ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職ノ三種トス府縣知事ハ府縣吏員ノ懲戒處分ヲ行ハントスル前其吏員ノ停職ヲ命シ并ニ給料ヲ支給セザルコトヲ得懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間其府縣團體ノ公職ニ選舉セラレ若ハ任命セララルコトヲ得ス

府縣吏員ノ服務規律ハ内務大臣之ヲ定ムルモノトス

府縣吏員ノ身元保證及賠償責任ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

有給府縣吏員ノ給料額并ニ旅費額及其支給方法ハ府縣知事之ヲ定ムルモノトス委員ハ名譽職ナルカ故ニ固ヨリ給料ヲ受タルコトナシト雖モ職務ノ爲ニ要スル費用ノ辨償ヲ受タルコトヲ得費用辨償額及其支給方法ハ府縣會ノ議決ヲ

經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム若之ヲ許可スヘカラスト認ムルト  
 キハ内務大臣之ヲ定ムルモノトス有給府縣吏員ハ退職料退職給與金遺族扶助  
 料ヲ受クルモノトシ其給與額及其支給方法ハ名譽職員ノ費用辨賠額及支給方  
 法ヲ定ムルト同一ノ手續ニ依リ之ヲ定ムルモノトス退職料退職給與金遺族扶  
 助料及費用辨償ノ給與ニ關シ異議アル者ハ之ヲ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得  
 異議ノ申立アリタルトキハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付セサルヘカラス其決定  
 ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得右ノ決定ニ付テハ府縣知事ヨ  
 リモ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

丙、雇傭關係ニ依ル職員

前ニ述フル所ノ府縣官吏府縣吏員ノ外府縣ニ於テハ民法上ノ雇傭關係ニ依リ  
 人ヲ使用シ之ヲシテ府縣團體ノ事務ヲ取扱ハシムルコトアリ例ヘハ府縣吏員  
 ノ一トセスシテ府縣立病院長ヲ雇入ルル場合ノ如シ之ニ付テハ府縣制ニハ別  
 ニ明文ナケレトモ府縣カ之ヲ爲シ得ルコトハ疑ヲ容レス勿論吏員ヲシテ取扱  
 ハシムル事務ト民法上ノ雇人ヲシテ取扱ハシムル事務トカ何等區別アリトイ

フニハ非ス唯吏員トシテ事務ヲ執ラシムル場合ト民法上ノ雇人トシテ事務ヲ  
 執ラシムル場合トハ其身分關係ニ差異ヲ生スルノミ即チ同シク病院長ニテモ  
 若其人カ府縣吏員ナルトキハ府縣ニ對シテ公法上ノ雇傭關係ヲ有シ府縣知事  
 ノ監督權ノ下ニ立チ或場合ニハ其懲戒處分ヲ受ケサルヘカラス之ニ反シテ若  
 其人カ單純ナル民法上ノ雇人トスレハ府縣ト自己トノ關係ハ唯使用者ト被使  
 用者ノ關係ニシテ府縣知事ノ監督權ノ下ニ立タス從テ懲戒處分等ノ問題ヲ生  
 スルコトナキナリ如斯クナルカ故ニ其人ノ受クル所ノ給料ノ如キモ吏員ノ給  
 料ト其性質ヲ異ニシ民法上ノ報酬ニ過キス之ニ關シ異議アル場合ニハ民事訴  
 訟ニ依ルヘキモノニシテ吏員ノ給料ノ場合ノ如ク府縣參事會ノ決定及行政訴  
 訟ノ方法ニ依ルヘキモノニ非サルナリ

以上甲乙丙トシテ述フル所ノモノカ府縣團體ノ補助行政機關タリ此以外ニ於  
 テ府縣制ノ認ムル補助行政機關アルコトナシ然ルニ實際府縣費ヲ以テ其給料  
 ヲ支辨セル幾多ノ職員ニシテ而モ府縣團體ノ機關ナルヤ否ヤ其性質極メテ曖  
 昧ナルモノアリ即チ府縣立學校職員地方測候所職員府縣農事試驗場工業試驗

場水産試験場農事講習所工業講習所水産講習所種畜場ノ職員等はナリ此等ノ職員ハ其俸給ハ勅令ノ規定ニ依リ府縣團體ノ負擔ニ屬スレトモ其身分ニ至テハ勅令ノ規定ニ依リ官吏ニ準シテ奏任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケ其判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ハ府縣知事限リ之ヲ任免スルヲ得レトモ其奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ任免ハ内閣總理大臣之ヲ奏薦宣行スルモノナリ故ニ此等ノ職員ヲ以テ府縣吏員ト看做スコトヲ得ヌ何トナレハ若府縣吏員ナリトセハ府縣制第七十五條ノ明文ニ依リ府縣知事之ヲ任免スヘキモノナルカ故ニ奏任文官待遇者ハ内閣總理大臣之ヲ奏薦宣行スルノ規定トハ相容レス然モ勅令ノ規定ヲ以テ法律タル府縣制ノ除外例ヲ設ケタルモノトイフコトヲ得サレハナリ既ニ府縣官吏ニ非ス又民法上ノ關係ニ依リ府縣ニ雇入レラルル者ニモ非スシテ然モ亦府縣吏員ニ非ストセハ此等ノ職員ハ府縣團體ノ機關ニ非ストイフノ外ナキナリ換言スレハ此等職員ノ掌ル所ノ事務ハ府縣團體ノ事務ニ非スシテ國ノ行政事務ナリトイハサルヘカラサルナリ勿論教育事務ノ如キハ市制町村制ニ於テモ之ヲ市町村ノ事務ト看做ササルモノニシテ之

ヲ府縣ノ公益ニ關スル府縣事務ト見シテ廣ク國家ノ公益ニ關スル國家事務ト見ルハ或ハ然ルヘントスルモ工業試験場農事試験場水産試験場ノ事務迄モ之ヲ府縣事務ニ非スシテ國ノ事務ナリト謂フハ稍疑ハシキ點ナキニ非ス然レドモ右等職員ノ身分關係ヲ規定セル勅令ト府縣制ノ規定トヲ矛盾ナク説明セントスレハ如斯キ見解ヲ取ラサルヘカラス果シテ然リトセハ明治三十三年四月六日内務省令第十四號府縣郡ヨリ給料給與ヲ受クル吏員職員ニ對シ退隱料退職給與金遺族扶助料ノ支給ニ關スル規定ヲ設クルノ件ト稱スルモノハ府縣制ノ精神ニ抵觸スル所ナキヤ頗ル疑アリトイハサルヘカラス該省令ハ府縣郡ヨリ給料給與ヲ受クル吏員職員ニ對シ府縣郡ニ於テ退隱料退職給與金遺族扶助料ノ支給ニ關スル規定ヲ設クルノ必要アルトキハ法律命令中別段ノ規定アルモノヲ除ク外府縣ニ在テハ府縣會郡ニ在テハ郡會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ受クヘキニトテ規定セリ所謂府縣ヨリ給料給與ヲ受クル吏員職員トハ恐クハ府縣吏員ニアラスシテ府縣ノ事務ヲ取レル職員即チ民法上ノ雇傭ニ係ル者及學校職員試験場職員測候所職員等ヲ廣ク總括スルモノナルヘシ民法上ノ

雇傭ニ係ル者ハ府縣ノ事務ヲ掌リ府縣團體ノ機關タル者ナルカ故ニ府縣制第九十七條ノ精神ニ照スモ此等ノ者ニ對シテ退隱料等ノ給與ヲ爲スハ府縣制ノ許ス所ナリト謂ヒ得ヘシトスルモ府縣團體ノ事務ニ關係ナク府縣團體ノ機關ニアラサル職員ニ對シテ退隱料遣族扶助料等ヲ給與スルカ如キハ固ヨリ府縣ノ公共事務ニ非サルカ故ニ府縣制ノ明ナル規定ニ依ルカ又ハ法律勅令ニ依リ負擔ヲ命セラレタル場合ノ外府縣ニ於テ當然之ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス且一片ノ內務省令ヲ以テ如斯キ權能ヲ府縣ニ附與シ得ヘキモノニ非サルコト勿論タリ或ハ府縣ノ費用ヲ以テ學校試驗場講習所等ヲ設置スルコトヲ府縣ニ命シ若ハ之ヲ許ス所ノ法律勅令ヲ根據トシテ所謂府縣ノ費用ノ中ニハ職員ノ退隱料遣族扶助料等ヲモ包含スルカ故ニ府縣ハ右ノ法令ニ依リ當然此等ノ支出ヲ爲ス義務ヲ有シ若ハ權能ヲ有スルモノナリト論スル者アルヘキモ府縣ノ費用トイフハ直接設置ニ必要ナル費用ヲ謂フモノニシテ職員ノ俸給ノ如キハ固ヨリ其中ニ包含スヘキモ退隱料遣族扶助料ノ如キハ當然包含セラレルモノニ非ス故ニ之ヲ以テ府縣カ右職員ノ退隱料等ヲ支出シ得ルノ根據トナスヲ得サル

ナリ以上論スルカ如ク明治三十三年四月六日內務省令第十四號ニ付テハ頗ル論議ヲ容ルルノ餘地アリ是レ畢竟府縣制ノ規定ト學校試驗場講習所等ノ職員ノ身分關係ヲ定ムル勅令ノ規定トノ間ニ十分ノ統一連絡ナキカ爲ニ種種ノ疑義ヲ生スルニ外ナラサルナリ

(府縣制第七十五條乃至第九十七條第二百二十六條明治三十三年四月六日內務省令第十四號府縣郡ヨリ給料給與ヲ受クル吏員職員ニ對シ退隱料退職給與金遣族扶助料ノ支給ニ關スル規定ヲ設クルノ件) 中學校令高等女學校令實業學校令氣象臺測候所條例府縣農事試驗場園庫補助法農商務省令府縣農事試驗場規程府縣農事講習所規程府縣水產試驗場規程府縣水產講習所規程府縣都市工業試驗場及工業講習所規程道廳府縣種畜場規程明治三十五年二月內務省令第三號府縣郡吏員服務規程參照

#### 第四章 府縣ノ行政

府縣團體ノ行政事務ニハ固有事務ト委任事務トノ區別アリ固有事務トハ法規

ノ別段ノ委任ナクトモ團體ニ於テ當然之ヲ行フコトヲ得ル種類ノ事務ヲ謂フ  
 即チ府縣團體ノ存立ヲ認ムル法規カ初メヨリ團體ヲシテ當然之ヲ行ハシメン  
 コトヲ豫想セル事務ヲ謂フニ外ナラサルナリ委任事務ハ之ニ反シテ法規ノ特  
 別ノ委任ニ依リ團體ニ於テ行フ所ノ事務ヲ謂フ府縣制第二條ニ於テハ府縣ハ  
 法人トシ官ノ監督ヲ承ケ法律命令ノ範圍内ニ於テ其公共事務并從來法律命令  
 又ハ慣例ニ依リ及將來法律命令ニ依リ府縣ニ屬スル事務ヲ處理スルコトヲ規  
 定セリ所謂公共事務ハ固有事務ノ義ニシテ從來法令又ハ慣例ニ依リ及將來法  
 律命令ニ依リ府縣ニ屬スル事務ハ委任事務ノ義ナリ固有事務即公共事務ノ何  
 ナルヤハ法ニモ明ナル規定ナシト雖モ其主トシテ府縣人民ノ利益ニ關スルモ  
 ノナラサルヘカラサルハ明ナリ而シテ如何ナル政務カ主トシテ府縣人民ノ利  
 益ニ關スル事務即府縣ノ公共事務ト看做サルルヤニ至テハ人ノ思想ノ變遷ニ  
 伴ヒ時代ニ依リテモ異ナリ一概ニ之ヲ論スルヲ得スト雖モ今日ノ思想ニ於テ  
 ハ外交、軍事、財政、司法及警察ノ如キ事務ハ國家全般ノ利害ニ關スルコト大ナル  
 カ故ニ之ヲ國ノ事務トシ一地方ノ公共事務ト看做サズ國ニ依リテハ地方警察

ノ如キハ之ヲ地方ノ公共事務ト看做スモノアリ故ニ結局府縣ノ公共事務トハ  
 營造物ヲ設立スルカ如キ衛生、土木、勸業、恤救等ノ施設ヲ爲スカ如キ特ニ府縣人  
 民ノ精神上身體上并ニ經濟上ノ利益ヲ伸暢スルヲ目的トスル事務ヲ謂フモノ  
 ナルヘシ然ルニ教育事業ノ如キハ先ニ府縣ノ行政機關ノ章ニ於テ述ヘタル點  
 ヨリ考フルモ法ハ之ヲ以テ府縣ノ公共事務ト看做シ居ラサルモノノ如シ此等  
 ハ到底各箇ノ事務ニ付キ實際ノ規定等ヨリ判斷スルノ外ナシ次ニ委任事務ノ  
 範圍ニ至テハ各箇ノ法規ニ依リテ定マルモノナルカ故ニ一概ニ之ヲ論スルヲ  
 得サルハ勿論ナリ唯注意スヘキハ府縣制施行以前ヨリ已ニ法律命令又ハ慣例  
 ニ依リ府縣ニ於テ施行セルモノハ別トシ府縣制施行後ハ法律又ハ勅令ニ非テ  
 レハ團體ニ事務ヲ委任スルヲ得サルコト是ナリ明治十三年四月太政官布告第  
 十六號地方稅規則ハ府縣制第四百一ノ規定ニ依リ其府縣制ノ規定ト抵觸ス  
 ルモノノ外ハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クル迄其效力ヲ有スルモノニシテ其  
 第三條ニハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費用ヲ列舉セリ即チ警察費、警察廳舎建築  
 修繕費、土木費、區町村土木補助費、府縣會議諸費、衛生及病院費、教育費、區町村教育



補助費郡區廳舍建築修繕費郡區吏員給料旅費及廳中諸費教育費浦役場及難破船諸費(諸遺書及揭示諸費勸業費(戶長以下給料旅費地方稅取扱費府縣廳舍建築修繕費(府縣監獄費(府縣監獄建築修繕費是ナリ)(印ヲ付セルハ他ノ法令ニ依リ廢セラレタル費目ナリ尙前掲ノ費目ハ互ニ流用スルコトヲ許サス)此費目ノ中ニハ土木費衛生及病院費教育勸業費ノ如キ當然府縣ノ公共事務トシテ見ルヘキモノアリ警察費ノ如キ委任事務トシテ見ルヘキモノアリ固ヨリ此規定ニ依リテ公共事務ト委任事務トノ範圍ヲ明ニスルコト能ハサルナリ

府縣ノ事務ハ又之ヲ別テ必要事務及隨意事務ト爲スコトヲ得隨意事務トハ府縣自身ニ於テ一ノ場合ニ其事務カ必要ナルヤ否ヲ考量シ自ラ必要ト認ムル場合ニ於テノミ之ヲ行フコトヲ得ル事務ヲ謂ヒ必要事務トハ府縣ニ於テ其事務ヲ行フ必要アルコトカ法ニ依テ已ニ定マリ府縣カ自ラ其要不要ヲ認ムルノ自由ヲ有セサル事務ヲ謂フ此處ニ所謂隨意事務必要事務ノ區別ハ固有事務委任事務ノ區別ト其觀察點ヲ異ニシ其標準ヲ異ニス故ニ固有事務中ニモ必要事務アリ委任事務中ニモ隨意事務アルコトヲ妨ケス

府縣ニ於テ其固有事務及委任事務ヲ處理スルニ當リテハ府縣制第二條ノ規定ニ依リ官ノ監督ヲ承クルハ勿論法律命令ノ範圍内ニ於テセサルヘカラス故ニ例ヘハ府縣ニ於テ河川ノ公共事業ヲ施行スルニ當リテハ之ニ關スル勅令省令以下ノ警察規則ノ如キハ一一之ヲ遵守セサルヘカラサルナリ

府縣團體ニ於テハ自己ノ負擔ヲ以テ自己ニ屬スル事務ヲ處理スヘキモノナルコトハ論ヲ待タサレトモ而モ府縣ハ自己ニ屬スル事務ヲ悉ク行ヒテ其費用ヲ負擔スルノ義務ヲ有スルニハ非ス唯彼ノ必要事務ハ府縣ニ於テ之ヲ行ハサルヘカラサルモノナルカ故ニ之ニ必要ナル費用ハ府縣ニ於テ之ヲ支出スルノ義務アリ其他府縣ハ法律勅令又ハ從來ノ慣例ニ依リ府縣ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スルノ義務ヲ負フモノトス右ハ府縣制第二百二條ノ規定スル所ナリ故ニ府縣會ニ於テ如斯キ支出ヲ豫算ニ編入スルヲ拒ムカ如キ場合ニハ違法ノ議定トシテ之ヲ取扱フヘキモノトス唯注意スヘキハ府縣制第二百二條ニ所謂必要ナル費用ナルモノハ其限界ヲ知ルコト頗ル困難ナルコトアリ例ヘハ一ノ道路ヲ築造セサルヘカラサル場合ニ於テ府縣會カ其費用ヲ全部削除シタルトキハ疑モ

ナク必要ナル費用ノ支出ヲ拒ミタルモノナレトモ府縣會ニ於テ知事ヨリ提案セル費用ヲ多キニ失ストシテ僅ニ其三分一ヲ議決セルカ如キ場合ニ於テモ尙之ヲ以テ必要ノ費用ヲ拒ミタル違法ノ議決トイヒ得ヘキヤノ問題ヲ生スルカ如シ然ルニ如斯キ場合ニ於テ法ノ所謂必要ナル費用トハ事實上必要ナル費用即チ右ノ場合ニ付テ言ヘハ其時ノ事情ニ依リ常識ノ判斷ニ訴ヘ以テ目的ノ道路ヲ築造スルニ足レリト考ヘラルル費用ヲ指スモノナルカ故ニ府縣會ノ違法ナルト否トハ其議決金額カ右ノ費用ヲ償フニ足ルモノナルヤ否ニ依リ之ヲ決スヘキモノナリトス要スルニ必要ナル費用トハ唯行政廳ニ於テ必要ナリト認定スル費用トイフカ如キ意味ニ非スシテ法夫自身ニ於テ必要ナリト認ムル費用ヲ謂ヒ從テ一ノ費用カ必要ナル費用ナリヤ否ノ問題ハ認定問題ニ非スシテ法ノ問題ナルコトヲ注意セサルヘカラス

府縣ハ又其公益上必要アル場合ニ於テハ他人ノ事業ニ對シ寄附若ハ補助ヲ爲スコトヲ得寄附ト補助トハ其意義ニ於テ別ニ差異アルニ非ス自己ヨリ上ノ團體ニ對スル場合ヲ寄附ト謂ヒ自己ヨリ下ノ團體若ハ個人ニ對スル場合ヲ補助

ト謂フノミ現今ノ市制町村制ニハ寄附補助ニ關シ何等規定スル所ナキカ故ニ市町村ニ於テハ之ヲ爲スヲ得サルモノニ非サルヤノ疑ヲ生スルヲ免レス府縣制ニ於テハ第一百一條ニ於テ明ニ寄附及補助ノコトヲ規定シ府縣ニ此權能アルコトヲ示セリ

府縣ニ於テ前ニ述フルカ如キ種種ノ費用ヲ負擔スルカ爲ニハ財源ヲ要ス府縣ノ財源ニハ左ノ六種アリ一積立金穀等ニ使用料手数料等三府縣稅等四府縣債五補助及寄附六雜收入是ナリ今順次之ヲ述ヘン

第一、積立金穀等

府縣ハ積立金穀等ヲ設クルコトヲ得其積立方法財產ノ種類等ニ關シテハ府縣制ニハ別ニ制限スル所ナシ尙教育ノ目的ノ爲ニスル基金ニ關シテハ地方學事通則ニ其規定アリ即チ府縣ハ學校幼稚園圖書館ノ爲メ基本財產又ハ積立金ヲ設クルコトヲ得基本財產及積立金ハ單ニ某學校幼稚園圖書館ノ爲メ之ヲ設ケ又ハ通シテ數學校幼稚園圖書館ノ爲メ之ヲ設クルコトヲ得基本財產及積立金ノ設置及處分ハ監督官廳ノ許可ヲ受クルヲ要ス但積立金ヲ其目的ノ爲メ支出



スル場合ハ此限ニ在ラス此處ニ所謂處分ハ頗ル廣義ニシテ金錢ノ貸付權利ノ設定等モ皆此中ニ包含セラルルモノトス基本財産ヨリ生スル收入ハ教育ニ關スル目的ノ爲ニ使用スルコトヲ得ス積立金ヨリ生スル收入ハ其積立金ニ編入スルコトヲ要ス府縣ハ又教育ニ關スル寄附金等アルトキハ寄附者其使用ノ目的ヲ定ムルモノノ外基本財産トナスヲ要ス公立學校幼稚園圖書館ノ授業料入學試驗料書器使用料等ハ基本財産又ハ積立金トナスコトヲ得其他府縣ハ歲出ノ殘餘ヲ以テ基本財産又ハ積立金トナシ又ハ特ニ歲入ノ幾分ヲ增加シテ基本財産又ハ積立金トナスコトヲ得

## 第二、使用料手數料等

府縣ハ營造物若ハ公共ノ用ニ供シタル財産ノ使用ニ付キ使用料ヲ徵收シ又ハ特ニ一箇人ノ爲ニスル事務ニ付キ手數料ヲ徵收スルコトヲ得營造物トハ人物トノ集合ヨリ成リ主トシテ命令權ノ作用ニ依ラス直接ニ公衆ニ對シ事實的ノ利益ヲ與フルコトヲ目的トシ而シテ其目的ヲ達スルコトカ即チ行政作用ナルモノヲ謂フ公共ノ用ニ供シタル財産トハ單ニ物ノミヲ以テ成リ主トシテ命

令權ノ作用ニ依ラス直接ニ公衆ニ對シ事實的ノ利益ヲ與フルコトヲ目的トシ而シテ其目的ヲ達スルコトカ即チ行政作用ナルモノヲ謂フ即チ學者ノ所謂公有物ニ外ナラス例ヘハ博物館病院等ハ營造物ニシテ道路運河等ハ公共ノ用ニ供シタル財産ナリ公有物ハ學者之ヲ營造物ノ一種トナス者アレトモ府縣制ニ於テハ之ヲ營造物ト區別シ殊更ニ公共ノ用ニ供シタル財産ト稱スルモノノ如シ營造物モ公共ノ用ニ供スル財産モ共ニ行政作用トシテ設置セラルルモノナルカ故ニ其使用ハ即チ公法上ノ使用ニシテ使用料ハ亦公法上ノ收入ナリ次ニ手數料モ亦府縣カ特ニ一箇人ノ爲ニ行政作用トシテ或事ヲ爲シ其報償トシテ徵收スルモノナルカ故ニ公法上ノ收入タルコト明ナリ

府縣制中別ニ規定アル場合ヲ除ク外使用料手數料ニ關スル細則ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ムルモノトス其細則ニハ過料二圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得過料ハ刑罰ニ非ス一箇ノ行政處分トシテ之ヲ行フモノナリ過料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ府縣知事之ヲ掌リ其處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得使用料手數料ノ細則ヲ公布スルニ如何

ナル形式ニ依ルヤハ後ニ論ス)

右ノ外府縣ニ於テハ學校令等ノ規定ニ依リ府縣立學校ノ授業料等ヲ自己ノ收入トナスコトヲ得圖書館ノ閲覧料ノ如キモ同様ナリ其他府縣ハ明治二十一年七月十七日內務省訓令第十七號地方稅又ハ區町村費ノ支辨ニ係ル堤塘使用料等取扱方ト稱スルモノニ依リ府縣稅ノ支辨ニ係ル堤塘使用料及道路並木敷賃渡料等ヲ自己ノ收入トナスコトヲ得尙使用料手數料等ノ徵收ニ關スル異議訴訟及強制徵收ノ方法並ニ之ニ對スル救濟手段等ノコトハ便宜府縣稅ニ付テ述フル際ニ之ト併セテ説明スヘシ

### 第三、府縣稅等

府縣稅及其賦課徵收方法ニ關シテハ府縣制ハ法律ニ規定アルモノヲ除ク外勅令ノ定ムル所ニ依ルコトヲ規定シ且明治二十三年法律第八十八號府縣稅徵收法及地方稅ニ關スル從前ノ規定ハ府縣制ニ依リ變更シタルモノヲ除ク外勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クル迄其效力ヲ有スルコトヲ規定セリ右ノ諸規定ノ範圍内ニ於テ今日府縣稅トシテ賦課スルモノニハ國稅ノ附加稅アリ府縣限リノ

獨立稅アリ前者ハ即チ地租所得稅及營業稅ノ附加稅ニシテ後者ハ即チ戶數割、營業稅並雜種稅及家屋稅ナリ

地租ノ附加稅ハ本稅三分ノ一以內ヲ本則トシ其以上ヲ賦課スルニハ法律勅令中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外內務大臣ノ許可ヲ受ケサルヘカラス營業稅ノ附加稅ハ本稅ノ十分ノ二ル超過スルヲ得ス

戶數割ノ性質ハ法規ニ依ルモ十分明ナラサレトモ今日ノ實際ニ於テハ一種ノ所得稅ノ如キ性質ヲ有シ種種ノ事項ヲ標準トシテ可成各人ノ眞ノ實力ニ應シ公共ノ費用ヲ分擔セシメシムルコトヲ目的トスル稅ナルカ如シ即チ此點ヨリイヘハ戶數割ハ寧ロ學者ノ所謂物稅ニ非スシテ所謂人稅ニ近キモノトイフヘシ尤モ課稅ノ際標準トスヘキ事項等ニ付テハ法ニ何等定ムル所ナク全ク府縣ノ自由ニ一任スルモノナリ(實際ハ後ニ述フル所ノ府縣制ノ規定ニ依リ戶數割賦課ノ細目ニ係ル事項ハ府縣會ノ議決ニ依リ關係市町村會ノ議決ニ一任スルモノ多シ然シテ戶數割ト家屋稅トハ互ニ相關係スル所アリ明治三十二年六月十六日勅令第二百七十六號府縣稅家屋稅ニ關スル件ニ於テハ府縣ハ其府縣ノ全部

若ハ一部ノ地ニ於ケル家屋ニ對シ家屋稅ヲ賦課スルコトヲ得レトモ家屋稅賦課ノ地ニ於テハ戶數割ヲ賦課スルヲ得サルコト及府縣ニ於テ新ニ家屋稅ヲ賦課セントスルトキハ府縣曾ノ議決ヲ經内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘキコトヲ規定セリ之ニ依リテ見レハ家屋稅トハ相兩立スルヲ得ス家屋稅ハ全ク戶數割ノ代用物タルコト明ナリ即チ法ノ趣旨ハ都會地其他ノ出入ノ頻繁ナル土地ニ在テハ戶數割ヲ居住者ヨリ徵收スルニ困難ヲ感スルコトアルヲ以テ家屋稅トシテ家主ヲシテ納稅セシメ而シテ實際ノ負擔ハ家賃ノ形ニ於テ家主ヨリ居住者ニ轉嫁セシムルノ便法ヲ許サントスルニ在ルナリ換言スレハ今日府縣ニ許サル所ノ家屋稅ハ戶數割ノ變形ニ過キサルナリ家屋稅トイヘハ常ニ今日府縣ノ賦課スル家屋稅ト同性質ノモノナリト誤解スヘカラス家屋稅ナルモノハ寧ロ家屋ヨリ生スル收入ニ課稅スルヲ目的トシ從テ家屋ノ所有者ヲ眞ノ負擔者トシ其負擔ヲ他ニ轉嫁セシメサルノ趣旨ヲ有スルヲ通常トス

營業稅並雜種稅ノ種目ニ關シテハ明治十三年四月八日太政官布告第十七號營

業稅雜種稅規則ニ規定アリ即チ營業稅ヲ課スヘキ種類ハ商業及工業トス但シ國稅アルモノハ此限ニ在ラストアリ又明治二十九年營業稅法第三十六條ニ於テハ國稅營業稅ヲ賦課スヘキ營業ニ對シテハ本稅十分ノ二以內ノ附加稅ヲ課スル外府縣稅ヲ課スルヲ得サルコトヲ規定セリ故ニ獨立府縣稅タル營業稅ヲ課シ得ヘキモノハ結局國稅營業稅ヲ課セサル商業及工業ニ限ラルルナリ此處ニ所謂商業及工業トハ自己ノ計算ヲ以テ自ラ危險ヲ負擔シテ商工ノ業務ヲ營ム場合ヲ指スモノニシテ單ニ一定ノ給料ヲ得テ一定ノ勞働ヲ爲ス場合ヲ含ムモノニ非ス即チ商業及工業ニ對スル營業稅ハ商工業ノ企業者ニ對スル稅ニシテ職人職工等ノ勞働者ニ對スル稅ニ非サルナリ然ルニ今日各府縣ニ於テ工業ニ對スル營業稅トシテ職工ニ課稅シテ怪マサルモノ多シ是レ法ノ精神ヲ誤解セルモノナルノミナラス商家ニ雇ハレテ給料ヲ受クル手代ノ如キ者ニハ商業ニ對スル營業稅ヲ課セサルニ拘ラス獨リ工業ニ從事セル職工ニ工業營業稅ヲ課スルハ負擔ノ公平ヲ失フモノニシテ之ヲ改メサルヘカラス或ハ職工ノ如キ中ニハ多額ノ給料ヲ得テ然モ實際所得稅ノ賦課ヲ免カレ居ルカ如キ者モアル

ヘク此等ニ對シテハ府縣稅トシテ相當ノ賦課ヲ爲スコトカ却テ公平ヲ得ルニ  
 近キ場合モ無キニアラサルヘシト雖モ此等ハ別ニ課稅ノ方法ヲ考フヘキモノ  
 ニシテ到底之ニ工業營業稅ヲ課スヘキモノニ非ザルナリ次ニ雜種稅ヲ課スヘ  
 キ種類ハ一料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋飲食店ノ類ニ湯屋三理髮人四傭人  
 受宿五遊藝師匠遊藝稼人相撲俳優雜問藝妓ノ類六市場七演劇其他興行遊覽所  
 七遊伎場八寄席九船車十水車十一乘馬十二厩畜十三漁業採藻ノ類ニシテ或ハ  
 業務ヲ目的トスルモノアリ或ハ物ヲ目的トスルモノアリ漁業稅採藻稅ハ各地  
 從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘク若其慣例ヲ改正シ又ハ新稅ヲ賦課セントス  
 ル場合ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府縣知事ヨリ內務大臣ニ具狀シ許可ヲ受  
 ケサルヘカラス府縣知事ハ府縣會ノ決議ヲ以テ營業稅雜種稅ヲ課スヘキ法定  
 ノ類目中ニ於テ賦課スルモノヲ取捨スルコトヲ得府縣知事ハ又其賦課スヘキ  
 各業ノ盛衰ヲ觀察シ府縣會ノ決議ヲ以テ各箇ノ稅額ヲ査定スルヲ要ス府縣知  
 事ニ於テ府縣會ノ決議ヲ經テ定メタル課目課額ハ內務大臣ニ報告スル  
 コトヲ要ス尙營業稅雜種稅ニ付キ前述ノ課稅種類ノ外地方特別ノ課稅ヲ要ス

ルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府縣知事ヨリ內務大臣ニ具狀シ許可ヲ受  
 クルコトヲ要ス

次ニ府縣稅賦課ノ範圍ハ人ニ關スルモノト物ニ關スルモノトアリ其人ニ關ス  
 ルモノニ付テ言ヘハ府縣稅ノ賦課ヲ受クヘキ者ハ左ノ如シ

一、府縣内ニ住所ヲ有スル者

一、三箇月以上府縣内ニ滞在スル者但シ其課稅ハ滞在ノ初ニ遡リテ徵收ス

二、府縣内ニ住所ヲ有セス又ハ三箇月以上滞在スルコトナシト雖モ府縣内

ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ若ハ使用シ又ハ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲

シ又ハ府縣内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス自然人若ハ法人但シ國ノ事業若

ハ行爲ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス尙本號ニ掲タル者ハ唯其土地家屋物  
 件營業若ハ其收入ニ對シ又ハ其行爲ニ對シテ賦課スル府縣稅ヲ納ムル

モノトス

以上一二三トシテ擧ケタル者ノ中ニハ一ノ例外アリ即チ皇族ハ上ノ各號ノ一  
 ニ該當スル場合ト雖モ市町村稅ノ場合ト同シク追テ法律勅令ヲ以テ定ムル迄

ハ從前ノ例ニ依リ課稅ヲ爲ササルモノトス  
 物ニ關スル府縣稅ノ範圍ニ付テ言ヘハ府縣稅ハ府縣ノ權力ノ及フ範圍即チ府縣ノ境域内ニ於ケル物又ハ營業其他ノ行爲ニ對シテノミ之ヲ課スルヲ得ルモノナリ從テ納稅者ノ府縣外ニ於テ所有シ若ハ使用スル土地家屋物件又ハ府縣外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ニ對シテハ府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得ス法ハ又任所滞在一府縣以上ニ渉ル者ノ收入ニ對シ府縣稅ヲ賦課スルトキハ其收入ヲ各府縣ニ平分シ其一部ニノミ賦課スヘキコトヲ規定セリ但シ土地家屋物件又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ハ各土地家屋又ハ營業所所在ノ府縣ニ於テ課稅スヘキハ勿論トス其他府縣制ハ一府縣以上ニ涉リ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ且其本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ關係府縣ニ於テ營業稅ノ附加稅ヲ賦課スルトキハ關係府縣知事協議ノ上其歩合ヲ定メ内務大藏兩大臣ノ許可ヲ受クヘク若協議整ハサルトキハ内務大藏兩大臣ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ規定セリ  
 如斯ク物ニ關スル府縣稅賦課ノ範圍ハ府縣ノ境域外ノ物ニ及ハサルト同時ニ

廣ク其境域内ニ於ケル物ニ及フヲ原則トスレトモ特ニ法ノ規定ニ依リ課稅ヲ免除セララルモノアリ府縣制第百十條ハ之ニ付テ府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノニ關シテハ法律勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルモノヲ除ク外市町村稅ノ例ニ依ルコトヲ規定セリ而シテ市町村稅ヲ免除セララルモノハ一所得稅法ニ於テ課稅セサル所得即チ所得稅法第五條ニ掲クル總テノ所得ニ政府府縣郡市町村及公共組合ニ屬シ直接ノ公用ニ供スル土地營造物家屋三社寺及官立公立ノ學校病院其他學藝美術慈善ノ用ニ直接ニ供セララル土地營造物及家屋四官有ノ山林又ハ荒蕪地ニシテ此外市町村稅ヲ免除スヘキモノニ關シテハ別段ノ法律勅令ヲ以テ定ムヘキモノトス  
 次ニ府縣稅ノ賦課ニ付テ言ヘハ府縣稅賦課ノ細目ニ係ル事項ハ府縣會ノ議決ニ依リ關係市町村會ノ議決ニ委任スルコトヲ得例ヘハ戶數割ノ賦課ニ關シテ何何ノ事項ヲ課稅標準ニ入ルヘキヤ課稅上ノ等級ヲ幾何ニ分ツヘキヤ或人ヲ一戶平均幾何トイフカ如キ大體ノ議決ニ止ムル場合ノ如シ市町村會ニ於テハ

縣會ノ議決ニ依リ定マリタル期限内ニ其議決ヲ爲ササルトキ若ハ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣參事會之ヲ議決スヘキモノトス

府縣稅ハ府縣内ノ全部ニ對シ均一ニ之ヲ賦課スルヲ原則トスルモ府縣内ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得而シテ其勅令ノ規定ニ依レハ法律命令中別ニ規定アル場合ノ外市都會郡部會ヲ設ケタル府縣ニ於テハ府縣ノ費用ヲ以テ支辨スヘキ事件ニシテ其市部ト郡部ト利益ノ程度ヲ異ニシ均一ノ賦課ヲ爲シ難キ事情アルトキハ其費用ニ限り不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

市制施行ノ府縣ニ於テハ郡廳舎建築修繕費及郡役所費ハ郡ニ屬スル部分ノ負擔トス

府縣稅ハ金錢ヲ以テ之ヲ徵收スルモノナレトモ府縣ニ於テ公共工事ヲ行フカ如キ場合ニ在テ勞役及物品ヲ要シ而モ場合ニ依リテハ人民ヨリ租稅ヲ徵收シ之ヲ以テ勞役物品ヲ購フヨリモ租稅ニ代ヘテ直接ニ勞役又ハ物品ヲ徵收スルコトカ人民ノ爲ニ便利ナルコトアリ又非常天災等急迫ノ場合ニハ府縣ニ於テ金錢ヨリモ寧ロ勞役物品其モノヲ必要トスルコトアリ故ニ府縣ハ其必要ニ依リ夫役及現品ヲ府縣内一部ノ市町村其他公共團體若ハ一部ノ納稅義務者ニ賦課スルコトヲ得而シテ府縣ニ於テ工事其他ノ場合ニ必要トスル勞役ハ一定ノ金錢ヲ以テ購ヒ得ヘキ普通ノ勞役ニ過キササルカ故ニ學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ夫役トシテ課スルコトヲ得ス夫役現品ハ又急迫ノ場合ニ於ケルモノノ外府縣稅ノ代納方法トモイフヘキモノナルカ故ニ金額ニ算出シテ賦課スヘキモノトス夫役ヲ課セラレタル者ハ其便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

府縣稅ハ直接ニ之ヲ各箇人ニ賦課スルモノナレトモ府縣ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其府縣稅トシテ徵收スヘキ金額ヲ市町村ニ分賦スルノ方法ヲ取ルコトヲ得分賦ノ方法ニ依ルトキハ府縣ニ對シテ其金額ヲ納ムルノ義務ヲ負フ者ハ市町村ニシテ各箇人ニ非ス義務者タル市町村ハ更ニ適宜ノ方法ニ依リ適宜ノ市町村稅目ニ於テ之ヲ各箇人ニ賦課スルコトトナルナリ而シテ分賦ノコ



トヲ定メタル勅令ノ規定ニ依レハ府縣ハ臨時少額ノ費用ノ爲メ特ニ賦課徵收ヲ爲スヲ要スル場合ニ於テハ其費用ヲ府縣内市町村ニ分賦スルコトヲ得右ニ依リ分賦スヘキ費用ノ限度ハ内務大臣之ヲ定ムルモノトス今日内務大臣ノ定ムル所ノ限度ハ當該年度ノ府縣稅既定豫算額ノ十分ノ一ナリ尙各町村ニ對スル分賦ノ割合ハ豫算ノ屬スル年度ノ前前年度ニ於ケル市町村ノ直接國稅及直接府縣稅ノ徵收額ニ依リ若此分賦方法ニ依リ難キ事情アルトキハ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ特別ノ分賦方法ヲ設ケタルコトヲ得以上ハ一般ノ府縣ニ付テ言フモノナレトモ市部會郡部會ヲ設ケタル府縣ニ於テハ府縣會ノ議決ヲ經テ其市部ニ屬スル部分ヨリ徵收スヘキ額ヲ全然市ニ分賦スルコトヲ得

府縣ハ貸座敷引手茶屋及娼妓ヨリ賦金ヲ徵收スルコトヲ得其賦課ハ府縣知事ニ於テ適宜之ヲ定メ雜收人中ニ編入スヘキモノトス本縣賦金ナルモノハ一種ノ府縣稅ニ外ナラサレトモ公益上ノ理由ヨリ之ヲ府縣稅トシテ取扱ハサルニ過キス

ハ動産ノ競賣ハ留置權者先取特權者質權者其他民法又ハ商法ノ規定ニ依リテ其競賣ヲ爲サントスル者ノ委任ニ因リ之ヲ爲ストアリ其第二十二條ニハ不動産ノ競賣ハ留置權者先取特權者質權者抵當權者其他民法ノ規定ニ依リテ其競賣ヲ爲サントスル者ノ申立ニ因リ之ヲ爲ストアリ然ルニ不在者ノ財産管理事件ノ管轄區裁判所ハ民法又ハ商法ノ規定ニ依リテ競賣ヲ爲サントスル者ナルカ故ニ競賣法ノ規定ニ適合セス從ツテ其委任又ハ申立ヲ採用スヘキモノニ非ス船舶ニ付キテハ別トス下嗚呼果シテ然ルカ予ハ其然ルヲ信スル能ハサルナリ蓋シ假ニ說者ノ言フカ如ク不在者ノ財産管理事件ノ管轄區裁判所ハ民法又ハ商法ノ規定ニ依リテ競賣ヲ爲サントスル者トアルニ該當セストスルモ既ニ第一及ヒ第二ノ甲ニ於テ説明シタル如ク右管理事件ノ管轄區裁判所カ競賣法ノ規定ニ依リテ直接ニ不在者ノ財産ヲ賣却スヘキ旨ノ裁判ヲ爲シ得ヘタ且ツ其裁判ノ執行ハ該裁判所自カラ之ヲ爲スヘキモノトスル以上ハ即チ該裁判所ハ本法ノ規定ニ依リテ競

賣ノ委任又ハ申立ヲ爲スノ權利ヲ賦與セラレタルモノナレハ假令競賣法ニ明文ナシトシテ其委任又ハ申立ヲ拒絶スルヲ得ス何トナレハ右本法ノ規定ハ競賣法ノ規定ニ對シ補充の規定タルノ關係ヲ有スルモノト謂ハサルヘカラサレハナリ況ンヤ管理事件ノ管轄區裁判所カ委任又ハ申立ヲ爲スハ畢竟民法第二十五條第一項ノ規定ニ基ツキ命シタル賣却處分ノ實行ノ爲メナレハ其委任又ハ申立ハ右民法ノ規定ニ依ルモノナリト言フモ必スシモ不當ナリトスヘカラサルニ於テヲ要之予ハ競賣機關ハ管理事件ノ管轄區裁判所ノ委任又ハ申立ヲ受理セサルヘカラサルモノナルコトヲ信シテ疑ハサルナリ

## 第二目 管理人ノ解任

民法第二十六條ニ據レハ不在者カ管理人ヲ置キタル場合ニ於テ其不在者ノ生死分明ナラサルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ管理人ヲ改任スルコトヲ得トアリ余カ茲ニ管理人ノ解任ト云ヘルハ即チ右民法ノ規定ニ

基ツキ裁判所カ不在者ノ置キタル管理人ヲ解任スルコトヲ指セルナリ

裁判所カ不在者ノ置キタル管理人ヲ解任スルトキハ茲ニ其財産ニ付キ管理人ヲ缺クニ至ルカ故ニ裁判所ハ解任ト同時ニ新管理人ヲ選任スルノ要アルヤ自明ノ理ナリ是レ民法カ改任ノ語辭ヲ用ヒタル所以ナリ要スルニ改任ナル語辭ハ舊管理人ノ解任ト新管理人ノ解任トノ二者ヲ包括セル意義ヲ有スルモノナリ然レトモ此二者中舊管理人ノ解任カ其主タルモノニシテ新管理人ノ選任ハ之カ從タルモノニ過キサルコトハ敢テ多辯ヲ要セザル所ナリトス是レ余カ本目ニ題スルニ當リ故ラニ改任ト言ハスシテ解任ト言ヒタル所以ナリ  
管理人ノ改任ニ關スル手續トシテハ總則ニ規定セルモノノ外本法ニ規定セルモノハ僅ニ一アルノミ即チ左ノ如シ

裁判所ハ管理人ヲ改任スヘキ場合ニ於テハ利害關係人ノ意見ヲ聽クコトヲ

得(本法第三九條)

此規定ノ意義及ヒ其立法上ノ理由ニ付キテハ第一目其一ノ下ニ於ケル說ヲ觀ルヘシ



### 第三目 管理人ノ監督

民法第二十七條ニ據レハ其第二項ニ不在者ノ生死分明ナラサル場合ニ於テ利害關係人又ハ檢事ノ請求アルトキハ裁判所ハ不在者カ置キタル管理人ニ其管理スヘキ財産ノ目錄ノ調製ヲ命スルコトヲ得トアリ其第三項ニ右ノ外總テ裁判所カ不在者ノ財産ノ保存ニ必要ナリト認ムル處分ハ之ヲ管理人ニ命スルコトヲ得トアリ同第二十八條ニ據レハ「管理人カ第百三條ニ定メタル權限ヲ超ユル行爲ヲ必要トスルトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得不在者ノ生死分明ナラサル場合ニ於テ其管理人カ不在者ノ定メ置キタル權限ヲ超ユル行爲ヲ必要トスルトキ亦同シトアリ同第二十九條第一項ニ據レハ「裁判所ハ管理入ヲシテ財産ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得トアリ同本法第四十四條ニ據レハ「裁判所ハ管理人ヲシテ擔保ヲ供セシメタル後其増減變更又ハ免除ヲ命スルコトヲ得トアリ民法第二十九條第二項ニ據レハ「裁判所ハ管理人ト不在者トノ關係其他ノ事情ニ依リ不在者ノ財産中ヨリ相當ノ報酬

ヲ管理人ニ與フルコトヲ得トアリ余カ茲ニ所謂管理人ノ監督トハ即チ此等ノ規定ニ依リ裁判所カ不在者ノ財産ノ管理人ヲ監督スルコトヲ指稱セルモノナリ

右民法第二十七條第三項第二十九條第一項及ヒ第二項本法第四十四條ニ所謂管理人ハ裁判所ノ選任シタルモノト不在者ノ置キタルモノトノ二種ヲ包含シ民法第二十八條前段ノ管理人ハ裁判所ノ選任シタルモノノミヲ指シ同條後段ノ管理人ハ不在者ノ置キタルモノノミヲ指ス從ツテ本目ノ標題ニ所謂管理人ハ「裁判所ノ選任シタルモノト不在者ノ置キタルモノトノ二種ヲ包括シタルモノト知ルヘシ

裁判所カ管理人ヲ監督スル方法ニ四アリ(一)財産ノ保存ニ必要ナル處分ノ命令(二)權限外ノ行爲ノ許可(三)擔保供出ニ關スル命令(四)報酬給與ノ命令是レナリ以下之ヲ分説スヘシ

因ニ記ス管理人ノ改任及ヒ解任モ管理人ニ對スル監督方法ノ一ニ加フルヲ得ナルニ非スト雖モ既ニ第一目及ヒ第二目ニ於テ之ヲ述ヘタルカ故ニ茲ニ

ハ之ヲ省クコトトセリ

### 其一 財産ノ保存ニ必要ナル處分ノ命令

茲ニ所謂財産ノ保存ニ必要ナル處分ノ命令トハ即チ前ニ掲ケタル民法第二十  
七條第二項及ヒ第三項ニ依リ裁判所カ自己ノ選任シタル管理人及ヒ不在者ノ  
置キタル管理人ニ對シ財産目録ノ調製其他總ヘテ不在者ノ財産ノ保存ニ必要  
ナル處分ヲ命スルコトヲ云フ而シテ其處分ノ種類ハ法律ヲ以テ之ヲ限定セス  
裁判所ノ見込ニ一任セラレタルカ故ニ裁判所ハ或ハ財産ノ狀況ノ報告及ヒ管  
理ノ計算ヲ爲サシメ(本法第四一條或ハ財産ヲ賣却セシメ本法第五八條或ハ財  
産ヲ供託セシムル等荷モ裁判所カ認メテ以テ財産ノ保存ニ必要ナリトシタル  
處分ハ總ヘテ之ヲ管理人ニ命スルコトヲ得ヘキナリ

民法第二十七條第三項ニハ其旨ヲ明示セサルモ裁判所カ不在者ノ置キタル管  
理人ニ對シ財産目録調製以外ノ保存處分ヲ命スルモ亦不在者ノ生死分明ナラ  
サル場合ニ限ルモノト解セサルヲ得ス何トナレハ財産目録ノ調製ニノミ不在

者ノ生死分明ナラサル場合ナルコトヲ必要トシ其他ノ處分ニ之ヲ必要トセザ  
ルノ理由毫モ存セサレハナリ是レ本法第四十一條第二項ニ於テ特ニ民法第二  
十七條第二項ノ場合ニ於テハ二ト言ヒ其趣旨ヲ明ニシタル所以ナリ

又民法第二十七條第二項ニハ利害關係人又ハ檢事ノ請求アルトキハフ文詞ア  
ルニ拘ラス同條第三項ニハ此クノ如キ文詞ナキカ故ニ或ハ疑ヲ懷ク者ナキヲ  
保セスト雖モ裁判所カ第三項ノ處分ヲ命スルニ付キテモ第二項ノ處分ヲ命ス  
ルトキト同様に利害關係人又ハ檢事ノ請求ヲ俟ツコトヲ要シ其請求ナキニ職權  
ヲ以テ之ヲ命スルコトハ許サレサル所ナリト解セサルヲ得ス何トナレハ財産  
目録調製ノ命令ニノミ其請求ヲ必要トシ其他ノ處分ノ命令ニ之ヲ必要トス  
ルノ理由毫モ存セサレハナリ而シテ本法第四十一條第一項及ヒ第二項ニ於テ  
モ亦右ノ如キ文詞ヲ加ヘサリシハ畢竟或裁判ヲ爲スニ付キテノ申立ノ要否ハ  
總ヘテ實體法ニ讓ルテフ本法ノ主義ヲ守レルニ外ナラス

前述ノ如ク財産ノ保存處分ハ多種多樣ナリト雖モ就中本法第二章財産  
ノ管理ニ關スル事件ノ題下ニ於テ特別ノ規定ヲ設ケラレタルモノハ(一)財産目

録ノ調製(二)財産ノ狀況ノ報告及ヒ管理ノ計算(三)財産ノ賣却ノ三處分ニシテ其他ノ處分ニ關シテハ總則ノ規定以外特別ノ規定ナシ

以下右三種ノ處分ニ付キ其特殊手續ヲ説明スヘシ

第一 財産目録ノ調製ニ關スル特殊手續

此手續ハ之ヲ分チテ財産目録ノ調製ニ付キテノ裁判ニ關スル手續ト其執行ニ關スル手續トノ二種ト爲スコトヲ得

甲 財産目録ノ調製ニ付キテノ裁判ニ關スル手續

民法第二十七條第一項及ヒ第二項ノ場合又ハ裁判所カ管理人ノ調製シタル目録ヲ不充分ト認メタル場合ニ於テハ裁判所ハ公證人ヲシテ財産目録ヲ調製セシムヘキ旨ヲ管理人ニ命スルコトヲ得但此命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得(本法第五六條第一項第二項)

民法第二十七條第一項ハ管理人カ裁判所ノ命令ヲ俟タス當然財産目録ヲ調製スヘキ場合ニシテ同第二項ハ管理人カ裁判所ノ命令ニ依リ之ヲ調製スヘキ場合ナリ此等ノ場合ニ於テ財産目録ハ管理人自身ニ於テ之

ヲ調製セシムルヲ以テ本則トスヘキコトハ勿論ナリト雖モ然カモ管理人ハ往々法律思想ニ乏シキ等ノ理由ヨリシテ適法且正確ナル目録ヲ調製スルノ能力ヲ有セサルコト無キニシモ非ス又假令其能力アルモ惡意等ニ因リ適法且正確ナル目録ヲ調製セサルヘキ處アルコト無キヲ保セス斯カル場合ニ於テハ管理人自身ヲシテ之ヲ調製セシメス之カ調製ニ付キ適當ノ技能ト信用トヲ有スル所ノ公證人ヲシテ之ヲ調製セシムルコトトスルヲ相當トス而シテ右ハ管理人ニ能力又ハ信用ナキコト當初ヨリ裁判所ニ知レ居レル場合ニ就キ言ヒタルナルカ此事實ハ必スシモ當初ヨリ裁判所ニ於テ知了シ得ヘキモノニ非スシテ管理人カ財産目録ヲ調製シタル後ニ至リ初メテ之ヲ發見スルコト尠カラサルヘシ此場合ニ於テハ裁判所ハ管理人ニ對シ更ニ公證人ヲシテ財産目録ヲ調製セシムヘキ旨ヲ命スルコトヲ得サルヘカラス又右ノ命令ハ其ノ當初ヨリ發セラレタルモノナルト一旦目録ノ調製セラレタル後ニ至リテ初メテ發セラレタルモノナルトヲ問ハス假令不當ナル場合ニ於テモ單ニ僅少ノ

手數ト費目トノ損失ヲ生スルニ止マリ別ニ大害ヲ生スルモノニ非サルカ故ニ之ニ對シテ覆審ヲ許スノ必要ナク却テ之ヲ許サハ徒ラニ不當ノ抗告ヲ爲シ以テ事件ノ進行ヲ阻害シ甚タシキハ其間ニ財産ノ散佚ヲ來タスカ如キ弊害ヲ生スルナキヲ保セサルカ故ニ之ニ對シテハ不服ノ申立ヲ許ササルヲ可トス是レ右ノ規定アル所以ナリ

此命令ニ基ツキ公證人ニ對シテ爲ス所ノ囑託ハ管理人自カラ之ヲ爲スヘク裁判所ニ於テ爲スヘカラサルコトハ敢テ多言ヲ要セサルヘシ  
裁判所カ此命令ヲ發スルハ民法第二十七條第三項ニ基ツクモノニシテ同條第一項又ハ第二項ニ基ツクモノニ非ス何トナレハ管理人カ自身ニ目錄ヲ調製スルコトト公證人ニ囑託シテ之ヲ調製セシムルコトトハ全ク別個ノ事柄ナレハナリ

## 乙

財産目錄ノ調製ニ付キテノ裁判ノ執行ニ關スル手續

余カ茲ニ財産目錄ノ調製ニ付キテノ裁判ト言ヘルハ管ニ甲ニ掲ケタル公證人ヲシテ財産目錄ヲ調製セシムヘキ旨ノ命令ノミナラス民法第二十七

條第二項ニ基ツク管理人自身ニ財産目錄ヲ調製セシムル命令ヲモ包含セ  
ルモノニシテ其執行ニ關スル手續ト言ヘルハ即チ右二種ノ命令ニ基ツキ  
公證人又ハ管理人自身カ財産目錄ヲ調製スルニ付キテノ手續ヲ意味セル  
ナリ而シテ今其手續ヲ説明スルニ當リ便宜ノ爲メ左ノ二題ニ分チテ之ヲ  
述フヘシ

### 一 目錄調製ノ方法

(一) 財産目錄ニハ(イ)調製ノ場所、年月日及ヒ其事由、(ロ)申立人ノ氏名住所  
(ハ)不動産ノ表示、(ニ)動産ノ種類及ヒ數量、(ホ)債權及ヒ債務ノ表示、(ヘ)親  
筆證書其他ノ書類ヲ記載シ調製者及ヒ立會人之ニ署名捺印スルコ  
トヲ要ス(本法第五條第一項第五條第六條第三項)

(ロ)ノ申立人ノ氏名住所ノ意義ニ付キテハ封印實施ノ調製ニ關シ  
第一目其第二一乙三ニ於テ爲シタル説明ヲ準用スルヲ以テ足リ  
其他ニ言フヘキコトナシ

(イ)ノ調製ノ事由トハ即チ申立人カ其申立ノ理由トシタル事實ヲ

云フモノナリ

(ハ)「不動産ノ表示」トハ即チ不動産所在ノ郡市區町村字土地ノ番號地目段別又ハ坪數等ヲ記載シ尙ホ建物ニ付キラハ其種類構造、建坪、番號等ヲモ併セ記載スルコトヲ云フモノナリ

(ニ)「種類」トハ即チ品目ノ義ニシテ例ヘハ机本箱、膳、櫥、馬、犬、米、麥ト云フカ如ク「數量」トハ即チ動産ノ品目ニ應シ其個數重量秤量等ヲ記載スルコトヲ云フモノニシテ例ヘハ机何脚馬何匹米何斗入何俵、金塊何匁醬油何升ト云フカ如シ

(ホ)「債權及ヒ債務ノ表示」トハ即チ債權ト債務トノ區別其種類體樣目的範圍發生日附、債務者又ハ債權者ノ氏名住所辨濟期等ヲ記載スルコトヲ云フモノナリ

(ヘ)「帳簿證書其他ノ書類」トハ即チ此等書類ノ種類冊數又ハ通數等ヲ記載スルコトヲ云フモノナリ

「立會人」トハ目錄ノ調製ニ付キ特ニ立會人ヲ選定シ之ヲシテ署名、

捺印セシムルノ趣意ニ非スシテニ述フル立會權利者ニシテ立會ヲ者アリタル場合ニ其者ヲシテ署名捺印セシムルノ趣意ナリ」  
「署名捺印」ノ意義ニ付キテハ封印實施ノ調書ニ關シ第一目其第二一乙三ニ於テ爲シタル説明ヲ準用スルヲ以テ足り其他ニ言フヘキコトナシ

右(イ)乃至(ヘ)ノ事項ハ何レモ財産目錄調製ノ由來及ヒ財産ノ狀況ヲ明確ナラシムルニ必要缺クヘカラサルモノナルカ故ニ之ヲ記載セシムルナリ

財産目錄ニ調製者及ヒ立會人ヲシテ署名捺印セシムルハ目錄ノ正確ヲ保障シ其信用ヲ維持スルノ目的ニ出テタルナリ

舊非訟事件手続法第四十二條ハ財産目錄ハ區裁判所判事ノ面前ニ於テ之ヲ調製スヘキモノトシタレトモ本法ニハ斯カル規定ナキカ故ニ調製者ハ適宜ノ場所ヲ選定シ其處ニ於テ之ヲ調製スルコトヲ得ヘシ

本法第五十五條第一項ニハ單ニ管理人カ調製スヘキ財産ノ目録ニハ云云下アリテ不在者ノ置キタル管理人タルト裁判所ノ選任シタル管理人タルトヲ區別セサルカ故ニ裁判所ノ選任シタル管理人ノ調製スヘキ財産目録ト雖モ尙ホ同條ノ規定ニ遵由セサルヘカラサルモノト解釋セサルヲ得ス蓋シ裁判所ノ選任シタル管理人ハ裁判所ノ命令ヲ俟タス當然財産目録ヲ調製セサルヘカラサルモノナルカ故ニ其カ財産目録ヲ調製スルニ付キテハ別ニ裁判所ノ管轄ニ屬スル非訟事件ナルモノナキ理ナリ從ツテ其調製ノ方法ヲ本法中ニ規定スルハ理論一偏ヨリスレハ聊カ妥當ヲ缺クノ嫌ナキニ非スト雖モ而カモ他ノ法令中ニモ之ヲ規定スヘキ適當ノ場處ナク又之カ爲メニ一個ノ單行法令ヲ特別ニ制定スル程ノ必要モナキノミナラス本法中ニハ必ス裁判所ノ命令ニ依リ管理人カ調製スヘキ財産目録ノ調製方法ヲ規定セサルヘカラサルコト故之ト共ニ右ノ場合ニ於ケル財産目録ノ調製方法ヲモ規

定スルハ極メテ實際上ノ便宜ニ適スルモノト謂フヘケレハナリ」前通ノ如ク本法第五十五條第一項ハ裁判所ノ選任シタル管理人カ當然調製スヘキ財産目録ニモ之ヲ適用スヘキモノナレトモ此場合ニ於テハ同項第一號中ノ調製ノ事由及ヒ第二號ノ申立人ノ氏名住所ハ之ヲ記載スヘキ限ニ在ラス何トナレハ此場合ニ於テハ申立人アルヘキ理ナク從ツテ又調製ノ事由アルヘキ理ナケレハナリ

(二) 財産目録ハ二通ヲ調製シ其一通ハ管理人ノ之ヲ保管シ其一通ハ之ヲ

裁判所ニ提出スルコトヲ要ス(本法第五五條第二項第五六條第三項) 財産目録ハ管理人カ其職務ヲ執行スルニ付キ必要缺クヘカラサルモノナレハ管理人ヲシテ其一通ヲ保管セシムヘキハ當然ナリ又裁判所ニ於テモ管理人ヲ監督シ利害關係人ノ利益ヲ保護スル爲メ其一通ヲ保存スルノ必要アリ是レ此規定アル所以ナリ

財産目録ハ假令公證人ヲシテ之ヲ調製セシメタル場合ト雖モ公

證人ヲシテ之ヲ保存セシムヘキモノニ非サルコトハ敢テ細説ヲ俟タサルヘシ

(一)ニ於テ説明シタルカ如ク本法第五十五條第一項ノ「管理人中ニ裁判所ノ選任シタル管理人ヲモ包含セル以上ハ同條第二項モ亦管理人カ當然調製スヘキ目録ニモ之ヲ適用セサルヘカラス蓋シ管理人カ當然調製スヘキ目録ト雖モ管理人及ヒ裁判所ニ於テ各自其一通ヲ保管スルノ必要アルコトハ管理人カ裁判所ノ命令ニ依リテ調製スヘキ目録ニ於ケルト毫モ異ナルヘキ理ナケレハナリ

## 二 利害關係人管理人及ヒ檢事ノ權利

(一) 利害關係人管理人及ヒ檢事ハ財産目録ノ調製ニ立會フコトヲ得本

法第五條第三項第五六條第三項第四六條第二項)

財産目録ハ不在者ノ財産ノ狀況ヲ證スヘキ證據ノ重要ナルモノナレハ利害關係人管理人及ヒ檢事ニ之カ調製ヲ監視スルコトヲ

得ヘキ機會ヲ與フルヲ相當トス是レ此規定アル所以ナリ

茲ニ管理人ヲモ併セ舉ケタルハ既ニ述ニタルカ如ク財産目録ハ裁判所書記又ハ公證人ニ於テ之ヲ調製スル場合アルカ爲メニ外ナラスシテ管理人カ之ヲ調製スル場合ニ管理人ニ立會權ヲ與フルノ趣旨ニ非サルコトハ殆ト説明ノ要ナカルヘシ

財産目録調製ノ期日ハ之ヲ利害關係人管理人及ヒ檢事ニ告通スヘキコトヲ其調製者ニ命シタル規定ナキカ故ニ調製者ニ告知ノ義務アリト論スルコトヲ得スト雖モ既ニ利害關係人管理人及ヒ檢事ニ立會ノ權利アル以上ハ調製者ハ可及的之ヲ告知シテ其權利ヲ行フコトヲ得シメサルヘカラス

一ニ於テ説明シタルカ如ク本法第五十五條第一項及ヒ第二項ノ「管理人中ニ裁判所ノ選任シタル管理人ヲモ包含スル以上ハ自カ同條第三項ノ「財産ノ目録ノ調製中ニモ亦管理人カ當然爲スヘキ財産目録ノ調製ヲ包含スルモノト解セサルヲ得ス蓋シ財産目



録ノ調製ハ管理人カ當然之ヲ爲スヘキ場合ニ於テモ管理人カ裁判所ノ命令ニ依リテ之ヲ爲スヘキ場合ニ於ケルト同様利害關係人及ヒ檢事ニ之ヲ監視スルコトヲ得ヘキ機會ヲ與フルヲ相當トスレハナリ

(二)利害關係人ハ財産目録ノ閱覽ヲ申請シ又ハ手数料ヲ納付シテ其濫本ノ交付ヲ申請スルコトヲ得ヘク又檢事ハ財産目録ヲ閱覽スルコトヲ得ヘシ(本法第五七條)

財産目録ハ既ニ述ヘタルカ如ク不在者ノ財産ノ狀況ヲ精細ニ記載セル文書ニシテ其狀況ヲ證スヘキ重要ナル證據ナレハ利害關係人及ヒ檢事ニ於テ其記載事項ヲ知ルノ必要ヲ感スルコトアルヘキハ勿論ナリ是レ此規定アル所以ナリ而シテ其濫本ノ交付ニ手数料ヲ徵收スルコトトセルハ濫本ノ調製ニハ相應ノ手数料要スルノミナラス若シ之ヲ無料トセンカ左程ノ必要ナキニ濫ニ其交付ヲ請求スルカ如キ弊ヲ生スルノ虞アルカ爲メニ外ナラス

茲ニ管理人ヲ除ケルハ既ニ述ヘタルカ如ク管理人ハ財産目録ノ原本ノ一通ヲ保管スヘキモノナルカ故ニ裁判所ニ向ヒテ其閱覽又ハ其濫本ノ交付ヲ申請スルノ必要ナキカ爲メナリ

濫本交付ノ手数料ハ濫本一枚ニ付キ金十錢ノ割合ニシテ收入印紙ヲ申請書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘキモノトス(明治三十二年司法

省令第三十四號第四條第五條)

第二 財産ノ狀況ノ報告及ヒ管理ノ計算ニ關スル特殊手續

裁判所ハ自己ノ選任シタル管理人ニ對シテハ不在者ノ生死ノ分明ナラサル場合ト否トヲ問ハス又不在者ノ置キタル管理人ニ對シテハ不在者ノ生死分明ナラサル場合ニ限り利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ其カ不在者ノ財産ノ保存ニ必要ナリト認ムル各種ノ處分ヲ命スルコトヲ得ヘキコトハ本目其一ノ冒頭ニ説明シタル所ノ如シ而シテ其各種ノ處分中管理人ヲシテ財産ノ狀況ノ報告及ヒ管理ノ計算ヲ爲サシムルカ如キハ管理人ヲ監督スル上ニ於テ最も適切且ツ有效ノ方法ト謂フヘシ是レ本法力之ニ付キ特ニ規定ヲ設ケタル所以ナリ



本法第四十一條ニハ裁判所ハ管理人ニ財産ノ狀況ヲ報告シ且管理ノ計算ヲ爲スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得トアルカ故ニ財産ノ狀況ノ報告ト管理ノ計算トハ必ス之ヲ併セ命セサルヘカラサルカ如キ觀ナキニ非スト雖モ元來財産ノ狀況ノ報告ト管理ノ計算トハ別個ノ事柄ナレハ孰レカ其一方ノミヲ命スルモ妨ナカルヘキ理ニシテ之ヲ禁止スヘキ理由ハ到底之ヲ發見スルコト能ハサルカ故ニ法文ニ右ノ如ク言ヘルハ畢竟此二種ノ處分ハ互ニ密接ノ關係ヲ有シ普通之ヲ併セ命スルヲ適當トスルカ爲メニ外ナラスシテ必スシモ其一方ノミヲ命スルコトヲ禁止スルノ趣旨ニ非スト解釋スルヲ妥當トス

之ヨリ財産ノ狀況ノ報告及ヒ管理ノ計算ニ關スル特殊手續ヲ説明スルニ當リ便宜ノ爲メ財産ノ狀況ノ報告及ヒ管理ノ計算ヲ命スル裁判ニ關スル手續ト其裁判ノ執行ニ關スル手續トノ二ニ分チテ之ヲ述フヘシ

甲 財産ノ狀況ノ報告及ヒ管理ノ計算ヲ命スル裁判ニ關スル手續

此種ノ手續トシテ本法ニ規定セルモノハ僅ニ左ノ一アルノミ  
 財産ノ狀況ノ報告及ヒ管理ノ計算ヲ命スル裁判ニ對シテハ不服ノ申立

ヲ許サス(本法第四一條第三項)

財産ノ狀況ノ報告及ヒ管理ノ計算ヲ爲スヘキ旨ノ命令ハ假令不當ナルトキト雖モ僅ニ多少ノ手数料費用トシテ損失スルニ止マリ格別ノ弊害ヲ生スヘキモノニ非サルカ故ニ之ニ對シテ特ニ覆審ノ申立ヲ許スノ必要ナキノミナラス若シ之ヲ許スニ於テハ徒ラニ理由ナキ不服ノ申立ヲ爲シ以テ手續ノ進行ヲ阻害シ甚タシキハ財産ノ散佚ヲ來タスノ虞ナキヲ保シ難キニ因リ之ニ對シテハ不服ノ申立ヲ許ササルヲ可トス是レ此規定アル所以ナリ

乙

財産ノ狀況ノ報告及ヒ管理ノ計算ヲ命スル裁判ノ執行ニ關スル手續  
 財産ノ狀況ノ報告及ヒ管理ノ計算ヲ命スル裁判ノ執行トシテハ單ニ管理人ヲシテ裁判所ニ對シ右報告及ヒ計算ヲ爲サシムルヲ以テ足り其他ニ別段ノ手續アルヘキ理ナシ而シテ財産ノ狀況ノ報告及ヒ管理ノ計算ノ命令アリタル場合ニ管理人カ裁判所ニ對シ其報告及ヒ計算ヲ爲ササルヘカラサルコトハ自明ノ理ニシテ法律ノ明文ヲ俟テテ後知ルヘキニ非ス故ニ本

法ハ此點ニ付キテハ別ニ明文ヲ設ケス唯之ニ關聯セル利害關係人及ヒ檢事ノ權利ヲ規定スルニ止メタリ而シテ其規定ハ左ノ如シ

利害關係人ハ財産ノ狀況ノ報告及ヒ管理ノ計算ニ關スル書類ノ閱覽ヲ申請シ又手数料ヲ納付シテ其謄本ノ交付ヲ申請スルコトヲ得ヘタ又檢事ハ右書類ヲ閱覽スルコトヲ得ヘシ(本法第四二條)

抑モ不在者ノ財産ノ狀況カ如何ニ爲リ居レルカ又管理人カ如何ニ財産ヲ管理シ居レルカハ利害關係人ハ勿論檢事ニ於テモ之ヲ知了スルノ必要アルコト多言ヲ俟タサル所ナレハ此等ノ人人カ之カ知了シ得ルノ途ヲ開カサルヘカラス是レ右ノ規定アル所以ナリ而シテ其謄本ノ交付ニ手数料ヲ徵收スルコトトセルハ謄本ノ調製ニハ相應ノ手数料要スルノミナラス若シ之ヲ無料トセンカ左程ノ必要ナキニ濫ニ其交付ヲ請求スルカ如キ弊ヲ生スルノ虞アルカ爲メニ外ナラス

右手数料ハ謄本一枚ニ付キ金拾錢ノ割合ニシテ收入印紙ヲ申請書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘキモノトス(明治三十二年司法省令第三十四號第

四條第五條

第三 財産ノ賣却ニ關スル特殊手續

裁判所ハ自己ノ選任シタル管理人ニ對シテハ不在者ノ生死ノ分明ナラサル場合ト否トヲ問ハス又不在者ノ置キタル管理人ニ對シテハ不在者ノ生死分明ナラサル場合ニ限り利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ其カ不在者ノ財産ノ保存ニ必要ナリト認ムル各種ノ處分ヲ命スルコトヲ得ヘキコトハ本目其一ノ冒頭ニ説明シタル所ノ如シ故ニ不在者ノ財産ニシテ朽敗ノ虞アルトキ又ハ保存ニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキノ如キニ於テハ裁判所ハ管理人ニ之カ賣却ヲ命スルコトヲ得ヘキヤ勿論ナリ茲ニ説明セントスルハ即チ其賣却ニ關スル特殊手續ナリ

今其手續ヲ説明スルニ當リ例ニ依リテ其裁判ニ關スル手續ト其裁判ノ執行ニ關スル手續トノ二ニ分チテ之ヲ述フヘシ

甲 財産ノ賣却ヲ命スル裁判ニ關スル手續

此種ノ手續トシテ本法ニ規定セルモノハ僅ニ左ノ一アルノミ

裁判所カ管理人ニ不在者ノ財産ヲ賣却スヘキコトヲ命スル裁判ヲ爲スニ當リテハ其裁判中ニ其賣却ハ競賣法ノ規定ニ依リテ之ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス(本法第五八條)

競賣法ニ規定セル賣却手續ハ最モ公平ニシテ且ツ嚴正ナルモノナレハ不在者ノ財産ノ賣却ノ如キ場合ニハ之ニ依ルヲ適當トスルコト論ヲ俟タス是レ此規定アル所以ナリ

因ニ記ス本法第五八條ノ規定ハ裁判所カ民法第二十五條第一項ニ基ツキ不在者ノ財産ノ管理ニ必要ナル處分トシテ裁判所直接ニ其財産ヲ賣却スヘキコトヲ命シタル場合ニモ之ヲ適用スヘキコトハ第一目其三ニ於テ説明シタル所ノ如シ

乙 財産ノ賣却ヲ命スル裁判ノ執行ニ關スル手續  
之ヲ説明スルニ當リ便宜ノ爲メ更ニ左ノ二題ニ分テ述フヘシ

一 裁判ヲ執行スヘキ機關

裁判所カ管理人ニ對シ競賣法ノ規定ニ依リテ不在者ノ財産ヲ賣却ス

ヘキコトヲ命スル裁判ヲ爲シタルトキハ其裁判ヲ執行スヘキ者即チ競賣機關カ競賣手續ヲ爲ス様同機關ニ對シテ手續ヲ選フヘキ者ハ管理人ナリトス這ハ蓋シ其裁判ノ趣旨即チ内容ヨリ出ツル當然ノ結果ニシテ敢テ絮説ヲ須タサルコトト信ス

二 裁判ノ執行手續

管理人ニ競賣法ノ規定ニ依リテ不在者ノ財産ヲ賣却スヘキコトヲ命スル裁判ノ執行手續トシテハ單ニ競賣法規定ノ競賣機關カ競賣手續ヲ爲ス様同機關ニ對シテ委任又ハ申立ヲ爲シ尙ホ競賣法ノ規定ニ從ヒ競賣手續ニ干與スルノ一事アルノミ其他ニ何等ノ手續ナシ  
裁判ニ基ツキ管理人カ競賣機關タル執達吏又ハ區裁判所ニ對シテ委任又ハ申立ヲ爲シタル場合執達吏又ハ區裁判所ハ之ヲ拒絕スルコトヲ得ルヤ否ヤニ付テハ第一目其三第二乙ニ於テ管理事件ノ管轄裁判所カ同様ノ委任又ハ申立ヲ爲シタル場合ニ關シ述ヘタルト同一ノ理由ニ因リ之ヲ拒絕スルコトヲ得サルモノト解釋セサルヲ得ス

## 其二 權限外ノ行爲ノ許可

管理人ノ通常權限即チ通常ノ場合ニ於ケル權限ハ不在者ノ置キタル管理人ニ在リテハ不韋者ノ定ムル所ニ依ルヘク是レ當然ニシテ言フヲ俟タサル所ナリ。若シ不在者カ之ヲ定メサルトキハ民法第百三條ニ據ルヘク又裁判所ノ選任シタル管理人ニ在リテハ毎ニ民法第百三條ニ遵フヘキモノトス。此事ハ第一目其第四ニ於テ既ニ之ヲ述ヘタリ。然レトモ時トシテハ財産管理ノ目的上右權限ヲ擴張シテ財産ノ賣却、變形等ヲモ爲スコトヲ得シムルノ必要ヲ感スルコトナキニ非ス。是レ民法第二十八條ニ於テ「管理人カ第百三條ニ定メタル權限ヲ超ユル行爲ヲ必要トスルトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得不在者ノ生死分明ナラサル場合ニ於テ其管理人カ不在者ノ定メ置キタル權限ヲ超ユル行爲ヲ必要トスルトキ亦同シ」ト規定シタル所以ナリ而シテ管理人カ右民法ノ規定ニ依リ裁判所ノ許可ヲ得タルトキハ玆ニ管理人ノ權限ハ擴張セラレ通常ノ場合ニ於ケル權限ヨリモ一層廣大ナル權限ヲ得ルナリ之ヲ稱シテ管理人ノ特

權限ト云フ蓋シ特別ノ場合ニ於ケル權限ノ義ナリ裁判所ヲ右民法ノ規定ニ依リ自己ノ選任シタル管理人及ヒ不在者ノ置キタル管理人ニ對シ通常權限外ノ行爲ノ許可ヲ與フルハ畢竟管理人ニ對スル監督權ニ基クモノニシテ即チ管理人ニ對スル監督方法ノ一ニ外ナラサルナリ。

右許可ハ申請ニ因リテノミ之ヲ與フヘク又其申請ハ管理人ニ限リテ之ヲ爲シ得ヘキコトハ右民法第二十八條ノ法文ニ徴シテ自カラ明ナリ。

右許可ニ關スル手續トシテ總則ニ規定セルモノノ外特殊ノ手續ナシ。

裁判所カ管理人ノ權限外ノ行爲トシテ不在者ノ財産賣却ノ許可ヲ與フル場合ニ於テ本法第五十八條ノ適用アルヤ否ヤ多少疑問タラサルニ非スト雖モ余ハ其適用ナキモノト思考ス何トナレハ民法第二十八條ノ許可ナル行爲ハ單ニ管理人ノ權限ヲ擴張スルノ效力ヲ有スルニ止マリ決シテ管理人ニ對シテ財産ノ賣却ヲ命令スルノ效力ヲ有スルモノニ非ス從ツテ管理人ハ假令其許可アルモ必スシモ財産ヲ賣却スルコトヲ要セス其之ヲ賣却スルト否トハ尙ホ管理人ノ自由ニ屬スレハナリ。

### 其二 擔保供出ニ關スル命令

茲ニ所謂擔保供出ニ關スル命令トハ即チ本目ノ冒頭ニ掲ケタル民法第二十九條第一項及ヒ本法第四十四條ニ依リ裁判所カ自己ノ選任シタル管理人及ヒ不在者ノ置キタル管理人ニ對シ財産ノ管理及ヒ返還ニ付キテノ擔保ノ供出ヲ命シ及ヒ一旦擔保ヲ供出セシメタル後其増減變更又ハ免除ヲ命スルコトヲ云フ』民法第二十九條第一項ニハ其旨ヲ明示セサルモ裁判所カ不在者ノ置キタル管理人ニ對シ擔保ノ供出ヲ命スルハ亦不在者ノ生死分明ナラサル場合ニ限ルモノト解セサルヲ得。何トナレハ財産目録ノ調製ヲ命スルニ付キ不在者ノ生死分明ナラサル場合ナルコトヲ必要トスルニ拘ラス擔保ノ供出ヲ命スルニ付キ之ヲ必要トセサルノ理由尠モ存セサレハナリ

右述フルカ如ク裁判所カ民法第二十九條第一項ニ依リ不在者ノ置キタル管理人ニ對シ擔保ノ供出ヲ命スルハ不在者ノ生死分明ナラサル場合ニ限ルモノトスレハ其當然ノ結果トシテ裁判所カ本法第四十四條ニ依リ不在者ノ置キタル管理人ニ對シ擔保ノ増減變更又ハ免除ヲ命スルモ亦不在者ノ生死分明ナラサル場合ニ限ルモノト謂ハサルヘカラス何トナレハ民法第四十四條ハ民法第二十九條第一項ノ補充的規定ニ外ナラサレハナリ

民法第二十九條第二項ニハ同法第二十七條第二項ニ於ケルカ如キ利害關係人又ハ檢事ノ請求アルトキハ之ヲ文詞ナキカ故ニ或ハ疑ヲ懷ク者ナキヲ保セスト雖モ裁判所カ管理人ニ對シ擔保ノ供出ヲ命スルニ付キテモ財産目録ノ調製ヲ命スルトキト同様利害關係人又ハ檢事ノ請求ヲ俟ツコトヲ要シ其請求ナキニ職權ヲ以テ之ヲ命スルコトハ許サレサル所ナリト解セサルヲ得。何トナレハ財産目録調製ノ命令ニ其請求ヲ必要トシ擔保供出ノ命令ニ之ヲ必要トスルノ理由尠モ存セサレハナリ

右述フルカ如ク裁判所カ民法第二十九條第一項ニ依リ管理人ニ對シ擔保ノ供出ヲ命スルハ利害關係人又ハ檢事ノ請求アルトキニ限ルモノトスレハ其當然ノ結果トシテ裁判所カ本法第四十四條ニ依リ管理人ニ對シ増減變更又ハ免除ヲ命スルモ亦利害關係人又ハ檢事ノ請求アルトキニ限ルモノト謂ハサルヘカ

ラス何トナレハ本法第四十四條ハ民法第二十九條第一項ノ補充の規定ナルコト前述ノ如クナレハナリ

是ヨリ擔保供出ニ關スル命令ニ付キテノ特殊手續ヲ説明スヘキ順序ナルカ之ヲ説明スルニ當リ例ニ依リ擔保供出ニ關スル命令其物ニ付キテノ手續ト該命令ノ執行ニ付キテノ手續トノ二ニ分テテ之ヲ述フヘシ

第一 擔保供出ニ關スル命令其物ニ付キテノ手續

此種ノ裁判ニ關シテハ總則ニ規定セルモノノ外特殊ノ手續ナシ

第二 擔保供出ニ關スル命令ノ執行ニ付キテノ手續

此種ノ手續トシテ本法ニ規定セルモノハ左ノ如シ

(一) 裁判所ハ管理人ノ不動産又ハ船舶ノ上ニ抵當權ヲ設定スヘキコトヲ命シタルトキハ其設定ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ得但其囑託ニハ抵當

權ノ設定ヲ命シタル裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ本法第四十五條第一項第二項

茲ニ所謂設定下ハ惟リ最初ノ設定ノミナラス本法第四十四條ニ依リ抵當物ノ増加又ハ變更ヲ命シタル場合ニ於テ新抵當物上ニ於ケル抵當權

ノ設定ヲモ包含スルモノトス

本法第四十五條第一項ニ於テ抵當權ヲ設定スヘキコトヲ命シタルトキ直チニ抵當權設定ノ登記ヲ囑託スルコトヲ得ヘキ旨ヲ規定シ同第二項

ニ於テ其囑託ニ登記原因ヲ證スル書面トシテ抵當權ノ設定ヲ命シタル裁判ノ謄本ヲ添附スヘキ(不動産登記法第二十五條第二項第三五條船舶登

記規則第一條參照)規定セルヨリ之ヲ觀レハ抵當權ヲ設定スヘキコトヲ命スル裁判アリタルトキハ之ニ依リテ直チニ抵當權設定ノ效力ヲ生

シ散テ管理人ノ承諾等ヲ要セサルモノナルコトヲ知ルニ足ルヘシ

登記ノ手續ニ付キテハ右ノ外向ホ不動産登記法又ハ船舶登記規則ノ規定ニ依ラサルヘカラス

(二) 右(一)ノ規定ハ裁判ニ依リ設定シタル抵當權ノ變更又ハ消滅ノ登記ニ之ヲ準用ス(本法第四十五條第三項)

裁判ニ依リ設定セラレタル抵當權ト雖モ其變更又ハ消滅ニ至リテハ必スシモ裁判ヲ原因トスルモノニ非スシテ裁判以外ノ事實ニ因ル變更又

非訟事件手續法 各論 民事訴訟事件 財産ノ管理ニ關スル事件

ハ消滅ノ場合ニハ之ヲ適用スヘカラサルモノト解スヘシ何トナレハ裁判以外ノ事實ニ因ル變更又ハ消滅ノ場合ニ裁判所カ其登記ヲ囑託スヘキ理由モナク又其囑託ニ裁判ノ謄本ヲ添付スヘキ理由モナケレハナリ」

本法第四十四條ニハ増減變更又ハ消滅トアルニ拘ラス第四十五條第三項ニハ變更又ハ消滅トアリテ増減ノ文字ナシ是レ敢テ別段ノ理由アルニハ非スシテ畢竟抵當ノ増加ハ即チ新抵當物ノ上ニ於ケル抵當權ノ設定ニ外ナラサルカ故ニ第四十五條第一二項中ニ包含セラレ又抵當ノ減少ハ抵當物ノ一部ノ上ニ於ケル抵當權ノ消滅ニ外ナラサルカ爲メナリ」

抵當權ノ設定ニ付キ(一)ニ於テ述ヘタルト同一ノ理由ニ因リ抵當權ノ變更又ハ消滅ヲ命シタル裁判アリタルトキハ之ニ依リテ直チニ抵當權ノ變更又ハ消滅ノ效力ヲ生シ敢テ管理人ノ承諾等ヲ要セサルモノト解セサルヘカラス

登記ノ手續ニ付キテハ右ノ外尙ホ不動産登記法又ハ船舶登記規則ノ規定ニ依ラサルヘカラス

雜 報

○競賣法ニ依ル競賣手續開始決定ノ取消 一旦競賣法ニ依リテ競賣開始ノ決定ヲ得タル後債務者カ其債務ヲ辨済シタルトキハ更ニ裁判所ニ訴ヘテ其決定ヲ取消サシムルコトヲ得ヘキカ大審院ハ之ヲ否定シテ曰ク「競賣法ヲ按スルニ不動産競賣手續開始決定ノ後競賣期日ノ前ニ在リテ債務者ニ於テ其債務ノ辨済ヲ受ケタルトキハ同法第二十三條ニ從ヒ先ニ爲シタル競賣申立ノ取下ヲ爲スヘキ責任アルコト明カナリ左スレハ債權ヲ辨済シタル債務者ハ債權者ヲシテ競賣申立ノ取下ヲ爲サシムヘキ權利アルハ辯テ俟タサルモ債務者ニ於テ競賣法ニ依リ管轄區裁判所カ爲シタル競賣手續開始決定ヲ取消シ得ヘキ權利ナキハ勿論受訴裁判所ト雖モ判決ヲ以テ管轄區裁判所カ競賣法ニ依リ爲シタル競賣手續開始決定ヲ取消シ得ヘキ法規ナキノミナラス亦其法理アルナシ然ラハ則チ上告人ニ於テ本訴競賣手續開始決定ノ後其債務ヲ辨済シタルト否トヲ問ハス本訴請求ハ法律上許容シ得ヘキモノニアラストシテ之ヲ却下スヘキ



ハ當然ナルニ云云(大審院明治三十八年三月二十三日第三十號不動產買賣手續判決)

○杉本講師ノ逝去 本大學維持員講師特許局事務官法學士杉本貞治郎氏去ル十月十七日逝去セラル氏ハ明治三十年帝國大學獨法科ヲ卒業シ職ヲ農商務省ニ奉シ一タヒ官命ヲ帶ヒテ歐洲ヲ巡視シ歸朝ノ後肺ヲ患ヒテ居ラ城府大井村ニ占メ或ハ鎌倉小田原等ニ靜養シ一旦殆ト回復セラレ官職ノ傍ヲ筆ヲ本講義録ニ執リ諸子ノ爲メ既ニ特許法及ヒ意匠法ヲ講了シ次テ商標法ノ講述ニ移ラレタリシカ今秋復々重患ニ陥リ去月初旬新築成ヲ告ケテ之ニ移任セラレシモ病勢革マリテ遂ニ起タズ悼哉

○擔杆講師ノ變更 前項記載ノ如ク杉本講師逝去ニ付キ商標法ノ講義ヲ特許局事務官法學士中松盛雄氏ニ囑託シ次號ヨリ掲載スルコトトセリ

○討論會及ヒ雄辯會 本大學三十九年度學期ニ於テハ頻繁ニ討論會及ヒ演說會ヲ開催スルコトト爲セルカ今十一月中ニ開會シタル討論會ノ問題及ヒ雄辯會ノ概況ヲ記セハ次ノ如シ

第一回討論會 本月四日法學士板倉松太郎氏會長席ニ著キ開會シタリ其間

題左ノ如シ

債務者甲カ其債權者乙ニ借用金ノ辨濟ヲ爲シタル後乙ハ其債權ヲ依然存在スルモノノ如ク裝ヒ丙ニ讓渡シタリ甲ハ乙丙ヲ共同被告トシテ讓渡行爲ノ取消ヲ爲スヘシトノ私訴ヲ乙ニ對スル公訴事件ニ附帶シテ提起シタルニ判決前乙ハ死亡シ裁判所ハ乙ノ死亡ノ事實ヲ知ラスシテ甲ノ請求ヲ棄却スル私訴判決ヲ下シタリ

甲ハ此判決ニ對シ乙丙ヲ共同被告トシテ控訴ヲ提起シ乙ノ既ニ死亡シタルヲ知リ乙ニ對スル其控訴取下ノ書面ヲ提出シ(此取下ノ時ニ於テハ判決言渡ヨリ五日以上ヲ經過セリ)乙ノ承繼人ニ對シテ更ニ訴訟手續受繼ノ申立ト共ニ控訴ノ申立ヲ爲セリ右ノ場合ニ於テ裁判所ハ如何ナル處分ヲ爲スヘキヤ(例セハ取下ヲ許スヘキヤ若シ取下ヲ許サストセハ前ノ控訴ヲ棄却スヘキヤ)將タ後ノ控訴ヲ棄却スヘキヤ將タ兩控訴共ニ棄却スヘキヤ(板倉學士出題)

第二回討論會 本月十一日法學士杉價上吉氏會長席ニ著キ開會シタリ其間

題左ノ如シ

裁判官ハ違憲ノ法律ヲ適用スル義務アリヤ(上杉學士出題)

第三回討論會 本月十九日法學士栗田貞三氏會長席ニ著キ開會シタリ其  
題左ノ如シ

既仕ノ事實ヲ以テ條件ト爲スコトヲ得ルヤ(栗田學士出題)

第四回討論會 本月二十五日法學士牧野英一氏會長席ニ著キ開會シタリ其  
問題左ノ如シ

甲アリ乙ヲ苦シメント欲シ人ヲ殺スニ足ルノ毒物ヲ吞マシメ後之ニ解毒  
劑ヲ與ヘンコトヲ期セリ然ルニ丙アリ乙ヲ殺サント欲シ甲カ與ヘントシ

タル解毒劑ヲ奪ヒ去リタル爲メ乙遂ニ死スルニ至レリ甲丙ノ責任如何牧  
野學士出題

第一回雄辯會 本月十八日午後六時開會梅總理開會ノ辭ヲ述ヘ三年生與川  
真鍋高橋三氏及ヒ校友守谷氏等ノ演說アリタリ

# 學生募集

詳細ハ法政大學一覽ニ在リ  
入用ノ向ニハ申込次第送呈ス

本大學ハ學者ノ淵梅總理、富井教頭、秋山、乾ノ兩教務主

幹ヲ始兩穗積、金井、岡野、岡田、高橋、松波、中村、山田、

志田、美濃部、加藤、寛、小野塚、清水、山崎ノ諸博士其他  
新進

ノ學士等數十名ノ講師各專攻學科ヲ擔任シ懇切ニ教授セラル

○專門部 法律科 第一、二、三年級 實業科 第一、二、三年級

○大學 豫科 第二學期

○高等研究科

○外國語專修科

十一月十六日授業開始

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

司法部指定

私立

## 法政大學

(電話番町一七四番)

明治三十八年十一月



明治三十八年九月二十七日第三種郵便物認可  
每月二十四日二十九日發行

明治三十八年十一月廿七日印刷  
明治三十八年十一月三十日發行  
(定價金貳拾五錢)

編輯兼發行所  
萩原敬之

印刷者  
小宮山信好

印刷所  
東京市芝區西ノ久保町舟町十一番地  
金子活版所

發行所  
東京市總町區富士見町六丁目十六番地  
司法省  
指定  
法政大學  
(電話番町百七十四番)